

悠久同窓会会誌

悠久

阿南高専悠久同窓会



2020・春
第52号
2020年2月20日発行

発行 阿南工業高等専門学校
悠久同窓会事務局
〒774-0017 阿南市見能林町青木265
印刷 (有)山田印刷所



令和元年8月12日 大西賢治氏講演会

目次

名誉会長ご挨拶
同窓会会長ご挨拶
学校だより

阿南高専の概況・学生の活躍・学察（明正寮）便り・一般教養便り
機械コース便り・電気コース便り・情報コース便り・建設コース便り
化学コース便り・広報情報室より・専攻科より

会員だより

近況短信・勝手に書きます！言いたい放題名作映画紹介（第5回）
赤い手帖（29）・平成31年、令和元日記
悠久第52号の原稿募集に寄せて

令和元年悠久同窓会総会

現役クラブだより

〈体育部〉 弓道部・テニス部・陸上競技部・水泳部
サッカー部・硬式野球部（低学年）

〈文化部〉 吹奏楽部・茶道部・プログラミング同好会

支部だより

東京支部

関西支部

総会のお知らせ



ご挨拶

名誉会長

寺沢 計二

悠久同窓会会員の皆様におかれては、ますますご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

令和の新時代となってまもなく1年。今年はいよいよ東京オリンピックの年ですが、阿南高専が産声を上げたのが前回大会の前年、昭和38年でした。この間、阿南高専をはじめ高専は、その後の日本の高度経済成長を支える優秀な技術者を世に送り出してきました。そして昭和、平成、令和と時は流れて、今、ふたたび高専が脚光を浴びています。

新年早々の1月4日付日本経済新聞に「次世代拓く人材を～産業構造の変化捉えた高等教育に」と題した社説が掲載され、AI時代を迎え世界的な技術競争が激化する中で、日本の大学はこれに対応できる高度技術人材を供給できておらず、課題解決型の教育・研究にカジを切るべきだとした上で、ものづくりの実践的な技術を習得する高専に着目し、ものづくりに長けた高専生にAIを習得させ、世界との競争に勝つ「高専型教育モデル」を拡充し、多くの高専が立地する地方において高度人材を育てていくことの重要性を訴えていました。

近年、阿南高専の卒業生への求人倍率は30倍に迫る勢いで、名だたる大企業から地元企業に至るまで多くのラブコールをいただいておりますが、これに十分お応えできていない状況が続いています。

一方、東京など大都市圏への一極集中が進む中で、地方では少子高齢化や人口流出に歯止めがかからず、おおよそ7割の学生が県外へと出て行きます。地元の優秀な若者を預かる阿南高専としても、世界へと羽ばたく人材を育てていくことの重要性は変わりませんが、地方創生が叫ばれている状況下において、地域の産業を支え、未来の発展をリードしていく人材を如何にして育み、地域に送り出していくかが大きな課題となっています。

そうした問題意識を背景に、昨年度の悠久同窓会50周年を期に、同窓会ならびに地元企業を中心とする阿南高専助成会（ACTフェロシップ）が、その活動強化を打ち出し、本校の教育・研究、そして学生の就職、キャリア教育に積極的にコミットしていただく動きが次々と始まりつつあり、本校としても、悠久同窓会の会員各位がご活躍している地元企業とタイアップし、地域産業を支える人材育成に積極的に乗り出しています。

中でも最大の目玉は、実習工場の改修と内閣府事業「次世代光リカレント人材育成事業」の開始です。ここ数年、阿南高専は「地域に開かれた地域とともに歩む高専」を標榜し、日亜化学寄附講座での先端研究やLED技術者養成講座の運営、「創立50周年記念材料工学棟」の実験・計測機器の地域開放などを行ってきましたが、正直に申し上げてその成果は限定的で、優秀な卒業生を世に送り出すと

いう高専本来の使命に対する高い評価には遠く及ばない状況が続いておりました。

そこで、「実践的技術人材の育成」という高専の原点に立ち返り、前述の実習工場改修と内閣府事業参画の青写真を練ったところ、予算要求が認められ、地域の企業人と学生が「協働」を通じ新たな技術や発想、ビジネス手法の習得、社会ニーズに応える新たな価値の創造、起業家精神の醸成などを共に学び育てていくことで、地域におけるSociety5.0の実現に貢献していくモデルを阿南高専が担っていく構想が、今まさに立ち上がりつつあります。

具体的には、本年度内に改修が竣工する新実習工場に、ロボットや3Dプリンタ、IoT、AIなど最新の技術に対応した試作ラボと、地域の企業技術者、学生、教員がデザイン思考でアイデア出しから設計、試作、評価など創造・共創的な議論ができるコワーキングスペースを備えたエリアを設けます。

また、内閣府事業では地元阿南が誇る光技術を活用し新たな産業を興すことが出来るリカレント企業技術者の育成に取り組むこととしており、実習工場改修に合わせた最新機器の導入や、光技術のみならずAIなど最新のIT技術やデザイン思考のビジネス手法に精通した産業界での経験豊富な特命教授を採用し、前述の創造・共創的な環境の下で、企業技術者と学生が「売れる製品、サービス」を協働して創り上げる経験を通じ、Society5.0時代の人材育成に取り組んでいきます。

さらに、徳島県内に次々と進出しているIT系ベンチャー企業の技術者をキャンパス内や近隣地域に呼び込み、「ものづくり×IT」人材育成のモデルとなるような仕組み作りにも取り掛かろうとしているところです。

最後に、学生たちの活躍についてご報告します。

体育系クラブにおいては、バドミントンで1年生の井上怜嗣君が県高校総体シングルスで優勝、全日本ジュニアの合宿に招聘されました。水泳、陸上でもインターハイ、インカレ出場を果たしたほか、硬式テニスでは全国高専体育大会において女子シングルス、ダブルスを完全制覇するなど大活躍しました。

高専の各種コンテストについては、全国高専プログラミングコンテスト都城大会において、昨年の徳島大会に続き2年連続で第二席の優秀賞を獲得、併せて起業家甲子園出場を果たしたほか、情報・プログラミング系の各種コンテストで多くの学生たちが好成績を収めました。

11月には高専ロボコンの四国大会が阿南高専で開催されました。残念ながら初戦で対戦した香川高専詫間部に僅差で敗れましたが、その詫間は全国大会において圧倒的パフォーマンスで優勝。近年、四国地区では全国レベルの強豪校として香川高専高松と詫間部が大きな壁として立ち塞がっていましたが、今回の本校チームの善戦は、来年度以降、久々の両国国技館進出を予感させる頑張りでした。

また、最近世界で注目のeスポーツにおいて、阿南高専チームが大活躍し、昨年3月の第1回全国高校eスポーツ選手権で3位、そして茨城国体にも県代表として出場し、大きな話題を集めました。

このように阿南高専では新しい時代の変化に柔軟、積極的に対応し、人材育成のモデルとなるような様々な取り組みにチャレンジしています。

悠久同窓会の皆様、阿南高専の学校運営ならびに学生たちの活躍に応援のほど宜しくお願い致します。



ご挨拶

同窓会会長

横手 久典

早春の候、同窓会会員の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、母校並びに同窓会運営に格別なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

「令和」という年号にも違和感が薄れ、本格的に新しい何かに心躍らされる2020東京オリンピックを迎える本年、「高専」は社会の大きな変革にも対応できる高度な専門技術者の養成教育機関として産業界から大きな期待を寄せられ、国も高等専門学校の高専化に資する取組みに支援するというように「高専」の存在が大きく見直されています。そして、高専教育制度の海外展開（モンゴル、タイ、ベトナム）にもテコ入れを行い、国際化の推進をも打ち上げております。「高専」はすでに「KOSEN」として国際語となっております。先般、全国高専同窓会連合会総会にて全国高専機構の谷口理事長が「世界のKOSENについて」というテーマで言及されておられました。そしてあと数年後で設立60年を迎える高専（全国51高専）の同窓会へ「まさしく還暦生まれ変わる歳を迎える高専、しっかりと支援してやってください。同窓会自身の変革成長も期待しています」と熱く語っておられました。高専人気は、平成30年実績で求人倍率約27倍にまでなっており（地元就職率は30%であるが）企業側から見れば即戦力としての期待度

は大学をも上回っているようであります。また徳島県内に新しい私立高専開校の動きがみられるように阿南高専の在り方も今後、大きな変革・変化を余儀なくされることとなるでしょう。

同窓生の一人として母校後輩諸氏の支援をお願いするとともに、一社会人として母校から発信される情報、共同研究開発や各種セミナーなどへの積極参加を呼び掛け、より多くの悠久同窓会会員様に母校を愛していただき、母校にも足を運んでいただける同窓会運営を今後続けてまいります。11月に開催されます文化祭では、一昨年前から悠久同窓会のサロンと称して卒業アルバムや、同窓会誌を閲覧できる場を構えております。8月12日の総会も年々、僅かではありますが参加者も増えております。関東、関西、徳島と各支部の動きも活発化してきております。会長としまして、大変ありがたくまた、頼もしく感じている次第であります。悠久同窓会の会員数も7300名を超える大組織となっております。より多くの会員様にメリットのある同窓会組織を目指してまいります。どうか、これからもご支援ご協力を賜ることを節にお願い申し上げます。

会員皆様方のご健勝とご多幸を心より願いますとともに更なるご活躍をご祈念申し上げ、挨拶といたします。

学 校 だ よ り

阿南高専の概況

教務主事

坪井 泰士

悠久同窓会員の皆さま、新春のおよろこびを申しあげます。

平成31年1月からの本校の概況をお知らせします。

平成31年3月には、創造技術工学科としての本科149名、専攻科26名が、本校から社会へと羽ばたきました。

本科149名のうち98名が就職（求人倍率26.7倍）、47名が進学でした。社会からの高い評価は、学生らの努力はもとより、悠久同窓会員の皆さまによるご理解とご支援の賜物です。重ねてお礼申し上げます。この評価を継続して高められるよう、引き続き「複数専門連携の卒業研究、複数コース学生協同のPBL：共同教育」などにより、学生生活の様々な場面でコンピテンシーの成長を促し、専門性の異なる他者との協同の中で自らの専門性を発揮し融合させられる「未来創造型エンジニア」を育成すべく励んでいます。

そこで必要となる教員の資質向上に向け、FD委員会により学内教員研修の実質化として「初任者、中堅、ベテラン」の3段階研修を整えました。また、新しくIR戦略室を立ち上げ、本校の円滑な運営と経営戦略計画策定に資する情報を学内外から収集・分析し、提供しています。例えば、入学検査成績（学力、調査書、面接）と入学後の成績との相関分析です。これらのデータをもとにした全教員による検討会も始めており、教員が一丸となった学校経営を目指しています。

後学期中間試験からは、その直前1週間、先輩学生が後輩学生の学習を支える「ポイントアップ補習」を開始しました。また、英語授業を担当するネイティブ教員を採用しました。

徳島県人口は現在約73万人、この15年間の出生数は約1,500人減少しています。これは、40名クラス換算で38クラスほどとなります。高等学校の統廃合、クラス数の削減も進んでいます。徳島市内には、新たに全県一区の高等学校、中等教育学校（中高一貫）が設置され、学区制（徳島県を3学区に分け、学区を越えての高等学校進学に制限）の制限緩和も進みつつあります。

本校を取り巻く環境は、大きく変化しています。これらの変化を取り残されることなく、その激流に棹さして、学生がいつそう社会で輝けるよう努めていきます。

今年が、皆さまとそして阿南高専にとってより良き一年となりますように。

学生の活躍2019

学生主事

勝 藤 和 子

あけましておめでとうございます。今年度より学生主事を務めております。よろしくお願ひいたします。悠久同窓会の皆さまには、昨年度から引き続き今年度も、11月9日（土）～10日（日）の蒼阿祭において、悠久同窓会のブースの設置と、歴代の卒業アルバムのご展示をいただき、ありがとうございました。蒼阿祭に、同窓会の先輩方と現在の学生をつなぐ懐かしく温かい空間が加わりましたことは、たいへん有意義だったと存じます。ここに謹んで御礼申し上げます。

さて、本校学生の今年度の活躍をここで一部紹介いたします。

令和元年11月3日（日）、第1体育館（阿南高専主管）において、高専ロボコン2019四国地区大会が開催され、熱戦が繰り広げられました。本年度はTシャツ、バスタオル、シーツを3本の物干しざおに掛ける「らん♪RUN Laundry（らん・ラン・ランドリー）」が競技テーマでした。本校から出場した2チームとも残念ながら決勝に進むことはできませんでしたが、「Nemophila（ネモフィラ）」は、予選結果1勝1敗で、本年度全国高専ロボコンで優勝することになる強豪諺間Bチームとの対戦において善戦しましたが、惜敗でした。このチームの2台の自動ロボットは、高速度で正確に制御した点が評価され、アイデア賞、特別賞（安川電機）を受賞しました。もう1チームの「泡狸（アワダヌキ）」も特別賞（田中貴金属グループ）を受賞しました。

第30回全国高専プログラミングコンテストは、10月12日（土）～13日（日）、都城市総合文化ホールで開催されました。本校の自由部門チームの「あ！水ダス（AMI Z D A S）-水災害を自ら防ぐ水位監視システム-」は小型で安価に開発された水位計で、IoTプラットフォームを活用した水位の監視と、住民自らアラートを設定できるWebシステムが評価され、優秀賞（第2位）とチームラボ企業賞、そして、NICT賞も併せて受賞しました。昨年度の課題部門での優秀賞に続き2年連続の受賞となりました。

全国高等専門学校デザインコンペティション2019（デザコン2019 in Tokyo）は、12月7日（土）～8日（日）、東京都大田区産業プラザPiOにて開催されました。本校からは構造デザイン部門に「アーチからトラスへ改修中」と「四国の右端の桁橋」の2チームが参加しました。両チームとも50kgの載荷荷重に耐え最後まで善戦しましたが、入賞はかないませんでした。

四国地区総合文化祭（四国西条市）では、書道部門において5E橋本 日菜子さん、絵画部門において5E荒井 誉麗さんがそれぞれ優秀賞を受賞、英語スピーチコンテストにおいて、2I溝淵 智也さんが第2位の成績を修めました。

クラブ活動体育局も活躍しました。成績の一部を紹介します。

- 徳島県高等総合体育大会（6月）
 - 陸上団体 男子フィールド 第1位
 - 陸上個人 男子棒高跳 第1位 谷 知篤 (3C)
 - 男子走高跳 第2位 岩佐隼東 (2C)
 - 男子砲丸投 第2位 坂野翔哉 (2C)
 - 女子 800m 第2位 黒田 凜 (1-2)
 - 男子三段跳 第2位 大前 歩 (3E)
 - バドミントン 男子個人シングルス 準優勝 井上怜嗣 (1-4)
- 中国四国学生水泳選手権大会（6月）
 - 水 泳 男子 200 mバタフライ 第2位 奥田真也 (4M)
 - 男子 100 m背泳ぎ 第2位 奥田真也 (4M)
- 中国四国国立大学選手権水泳競技大会
 - 水 泳 男子 200 mバタフライ 第2位 奥田真也 (4M)
 - 男子 100 m背泳ぎ 優勝 奥田真也 (4M)
- 四国地区高等専門学校体育大会（7月）
 - 水 泳 男子 200 mバタフライ
 - 第1位 奥田真也 (4M) ほか
 - テニス 男子ダブルス
 - 優勝 佐藤良祐 (5M)、今川雄斗 (4Z) ほか
 - 女子ダブルス
 - 優勝 瀧根風香 (5M)、森吉瑛里子 (4Z) ほか
 - サッカー 男子団体 準優勝
 - ソフトテニス 団体戦 優勝 ほか
 - 陸上競技 団体 第1位 ほか
 - バドミントン 男子団体 優勝 ほか
- 全国高等専門学校体育大会（8月）
 - テニス 女子ダブルス 優勝
 - 瀧根風香 (5M)、森吉瑛里子 (4Z)
 - 女子シングルス 優勝 森吉瑛里子 (4Z)
 - 女子シングルス 準優勝 瀧根風香 (5M)
 - 水 泳 男子 100 m背泳ぎ 第1位 奥田真也 (4M)
 - 男子 200 mバタフライ 第1位 奥田真也 (4M)
 - 陸 上 女子 3000m 第2位 黒田 凜 (1-2)
 - 男子砲丸投 6kg 第2位 坂野翔哉 (2C)
 - 女子走幅跳 第2位 新居鈴菜 (4C)
 - 男子三段跳 第2位 谷 亮磨 (5C)
 - 女子 800m 第1位 黒田 凜 (1-2)
 - 女子総合の部 第1位
- 全国高等専門学校弓道大会（8月）
 - 男子個人の部 優勝 山口堅也 (3E)
- インターハイ出場
 - 陸 上 三段跳 大前 歩 (3E)
 - 砲丸投 坂野翔哉 (2C)
 - バドミントン 個人戦 井上怜嗣 (1-4)
- インカレ出場
 - 水 泳 男子 100 m背泳ぎ 奥田真也 (4M)
 - 男子 200 mバタフライ 奥田真也 (4M)
- 徳島県高等学校新人大会（9月）
 - 陸 上 男子フィールド 第2位
 - 男子走高跳 第1位 岩佐隼東 (2C)
 - 第2位 大前雄三 (1-2)

- 徳島県高等学校新人大会（9月・10月）
 - 陸 上 男子砲丸投 第2位 坂野翔哉 (2C)
 - 女子 1500m 第1位 黒田 凜 (1-2)
 - 女子 800m 第1位 黒田 凜 (1-2)
 - テニス 男子団体 第2位
 - バドミントン 男子団体 優勝
 - 男子ダブルス 優勝
 - 森野純一郎 (2E)、井上怜嗣 (1-4)
 - 男子シングルス 優勝 井上怜嗣 (1-4)

いろいろな場面で学生が活躍できるよう教職員一同支援してまいります。今後ともご理解、ご協力、よろしくお願い申し上げます。

学寮（明正寮）便り

寮務主事

原野智哉

悠久同窓会員の皆様、令和最初の新年あけましておめでとうございます。平成31年4月1日また令和最初の寮務主事となりました機械コース 原野智哉です。寮務は初めての経験で、寮務経験の豊富な副主事・主事補の先生方や寮事務職員、そして寮を実運営している役員寮生からたくさんのアドバイスを受けながら、ミーティングにより教員・事務・寮生の3者全体の中庸を図りながら少しずつ推進しております。今年度4月には最新鋭のアクティブラーニングスペースを有する女子寮としてリニューアルされた5号館が運営開始されるなど取り組む内容も多くありました。慣れない業務ではありますが1年が経過しようとしています。宿直業務のみをしていたときとは異なり、改めて多くの課題があることを知りました。それと同時に役員寮生が明朗闊達に相互に意見を交わし、主事・寮務主事補の先生方をはじめ、寮事務などと円滑にコミュニケーションを図って運営している実情を体験することができ、改めて寮生（高専生）の素晴らしさに気づかされました。



5号館リニューアルオープン（アクティブラーニングスペース）

令和元年から新たに実施している3つの改革について紹介いたします。まず、第1に寮務委員会（先生）、役員寮生（学生）、事務の3者の連携を強化するため、すでに授業で利用されているインターネット上のラーニングマネジメントシステムである「Manaba（マナバ）」の活用運

営を開始しています。役員寮生による減点報告など、各種委員会と寮務の先生方や事務職員への迅速な相互連絡と指導即応性を高める取り組みを開始しています。4月からの運用を開始しておりますが、現在のところ即応性が確実に向上しています。さらに、目安箱の設置を「Manaba」上に7月上旬から設置し、寮運営上の課題や問題点を全寮生から発信できるように致しました。これにより、個人的に抱えている問題や課題の早期発見が行えると期待しています。

第2に寮祭を主体とするイベントの改革です。これまで寮祭は春（4月）・夏（7月）・冬（12月）の3回実施してきました。寮祭は全寮生約370名を対象にしているため、収容可能な第1体育館で実施してきましたが、夏・冬では暑さ・寒さが厳しく、体調不良を生じる可能性があり、内容も全寮生が楽しめる行事になっていません。現在、夏・冬の寮祭を見直して、10月に秋季寮祭へ一本化し全員参加型の学寮クイズ大会を楽しみました。また11月11日にはイベント委員主催で希望寮生を対象にBBQをフェニックス広場で実施しました。このBBQでは残念ながら食中毒を出す事態に発展しましたが、幸い入院等の重大な病人を出すには至りませんでした。これを踏まえ、寮生会（学生会含む）を対象に食中毒・感染症予防研修会を12月16日に実施するなど指導を強化し再発防止に努めています。



秋季寮祭（寮生クイズ）10/23（水）

第3に防災人材の育成です。例年、防災訓練を春（5月）・秋（10月）に実施してきました。春は火災避難訓練、秋は地震避難訓練です。とくに防災人材として育成を考えているのは南海トラフ地震対策であり、地震発生時に自分の命を守るスキル、震災後に生き延びるための避難リュックの中身の検討を含めたサバイバルスキル、地域住民が避難所として本校に来所した場合の避難所運営スキルの3つです。寮生は生活のため昼夜校内に駐在しています。とくに夜間には教員は宿直教員2名しかおらず、夜間に地震が発生した場合の自助対応と地域住民の避難来所対応については、寮生は大きな人材として活用できると考えています。これらの防災人材の育成を目指し今年度から少しずつですが、県が推進している防災出前授業「もっと まなぼうさい教室」を活用した講演会や避難リュックの中身を検討するワークショップを10月に実施しました。12月22日には県主催の「防災まつり」に参加し、低学年寮生をはじめ、防災委員の人材育成を展開していきます。



防災リュックワークショップ
10/30（水）

さらに、上述以外にも情報発信を活発にするため、阿南高専ウェブサイトのお知らせに行事内容をタイムリーにお知らせしています。また、寮に関する必要な情報を寮生や寮生保護者をはじめ、本校入学を考えている中学生やその保護者へ寮のウェブサイトを更新しました。よろしければ、閲覧いただきご意見を頂ければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

最後に、文部科学省から高専機構へ老朽化対策および耐震化への予算の確保への動きが大きくなっています。については、老朽化の激しい学寮の各号館改修の可能性が高い状況となっています。本件については、来年度に報告させていただきます。



eスポーツ大会 4/25（木）



食事マナー講座 12/11（水）



新年会 1/8（水）



一般教養便り

一般教養主任

田上隆徳

悠久同窓会の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年度から一般教養主任を務めます田上です。どうぞよろしくお願い致します。先ず一般教養の人事についてご報告致します。

平成31年の春に、林田栄治先生、川崎敏和先生が定年退職をお迎えになられました。林田先生は平成15年に赴任され、初代の国際交流室長として本校の国際交流の礎を築かれました。一方、川崎先生は平成17年に佐世保高専から赴任され、本校の数学教育の発展に寄与されました。長きにわたるご貢献に深く感謝するとともに今後の両先生のご活躍をお祈り申し上げます。林田先生の後任としてクリストファー ブライアン プロワント先生をお迎えしました。プロワント先生はアメリカ オレゴン州のご出身で、ご専門はクリエイティブライティングです。学生からも慕われており、本校の国際化をより一層活性化する教員として活躍が期待されています。

次に一般教養の先生方について近況をご報告致します。国語は坪井泰士先生、錦織浩文先生（教科主任）です。

主な校務は以下の通りです。(各教科とも同じ)

坪井先生 教務主事

錦織先生 広報情報室長、1年2組副担任

社会は藤居岳人先生(教科主任)、今田浩之先生です。

藤居先生 1年1組担任(学年主任)

今田先生 図書館長、2C担任

英語は勝藤和子先生、谷中俊裕先生、藤井浩美先生(教科主任)、城本春佳先生、プロワント先生です。

勝藤先生 学生主事

谷中先生 2M担任

藤井先生 学生相談室長、1年1組副担任

城本先生 2I担任、国際交流室副室長

プロワント先生 寮務主事補、2M副担任

体育は新井修先生(教科主任)、中島一先生です。

新井先生 副学生主事、1年3組副担任

中島先生 1年2組担任

理科は松尾俊寛先生(教科主任)、山田洋平先生、園田昭彦先生です。

松尾先生 教務主事補、2I・2Z副担任

山田(洋)先生 2Z担任

園田先生 1年3組担任

数学は榎田雅弘先生、山田耕太郎先生、西森康人先生、田上(教科主任)です。

榎田先生 2E担任(学年主任)

山田(耕)先生 1年4組担任

西森先生 教務主事補、1年4組副担任

田上 一般教養主任、2E・2C副担任

元号が平成から令和となり、新しい時代が始まりました。今後も一般教養では、より良い教育を目指して頑張っていきますので、ご支援ご協力の程よろしくお願い致します。

最後になりましたが、悠久同窓会の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

機械コース便り

機械コース主任

西野 精一

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。本年度の機械コース主任を務めさせていただいています西野です。よろしくお願いいたします。

令和2年となり「創造技術工学科」2期生の卒業を迎える時期となりました。1学科5コース制のカリキュラムの特色である、コース横断的授業の「共同教育」や「副専門」のカリキュラムも順調に進んでいます。機械コースとしては蒼阿祭の機械展示で、研究室毎に工夫して機械工学の紹介を企画しています。

今年度の卒業予定者は40名であり、31名が就職、9名が進学予定です。卒業生の皆様のご活躍のおかげで、本

年度も20倍を超える求人いただき、全ての就職希望者が内定を頂いています。今年度の特徴は、機械・製造メーカーだけでなく、IT系の企業や医療機械系の企業等、幅広い分野へ就職予定となっている点です。具体的には、日亜化学工業(2)、四国化工機、東亜合成、大塚化学、大塚製薬工場、テクシード、四国電力(2)、P&G(2)、JQA日本品質保証機構、グロープライド、東海交通機械、日立ビルシステム、京セラ、クボタ、NHK、デザインネットワーク、パナソニックAP、キャノンメディカル、富士フィルムメディカル、サントリー、旭化成、DMG森精機、ダイキン工業、e-TEAM ANA、富士通エフサス、JBS日本ビジネスシステムズ、IBMテクニカルソリューション、エムオーテックスとなっています。進学先は、専攻科(6)、岡山大学(2)、豊橋技術科学大学となっています。

また、機械コースでは2年から4年の各学年で見学旅行を実施しています。今年2年生は、グリコ、川崎重工、キューピー、森永乳業などの神戸方面の見学を行い、3、4年生はMテック、東京モーターショー、JAL機体整備工場などの東京方面の見学を行いました。今後、卒業生のみなさんがご活躍されている会社を見学させていただく機会もあると思いますのでその際にはよろしくおねがいします。

最後に、今年度行っている機械実習工場の改修が3月に完了し、4月からは機械工場実習だけでなく、リカレント教育や公開講座等で学外の人でも利用できるファブラボスペースが設けられます。同窓会の皆さんにもご活用いただければ幸いです。

機械コースは、よりよい教育を目指して教職員一同力を尽くしていますので、今後ともご支援よろしくお願い致します。



2年研修旅行



3年研修旅行

電気コース便り

電気コース主任

中村 雄一

悠久同窓会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年度電気コース主任を務めています中村です。コース主任は初めてとなりますが、よろしくお願いたします。

まずスタッフの異動について、長谷川先生が教授に、小林先生が准教授に昇任されました。また、主に電気コースの実習を担当していただける技術職員に、新たに本校電気電子工学科第47回卒業の尾崎貴弥さんが加わりました。尾崎さんは学生と年齢も近く、学生からの質問や相談にも気軽に対応してくれています。

元号が平成から令和に変わりましたが電気電子工学の基礎的な部分は重視しつつ、新たな技術・知識や教育手法等を導入しながら電気コースにおける技術者育成を進歩させていきます。昨年度の報告でもありました2年生から4年生の混成チームによる「イノベーション実習」では一つの模擬企業の成果が、第60回科学技術週間ポスターの写真として選ばれました。科学技術週間のHPに紹介されますので、ご覧ください。

5年生の進路状況については就職希望者24名全員が内定を得ています。就職先の内訳は、県内企業の大塚化学、大塚製薬工場、岡部機械工業、サイバネ、ソルベイスペシャルケムジャパン、日亜化学工業、電力・インフラ系企業の大阪ガス、関西電力、四国電力、四電エナジーサービス、中国電力、中部電力、製造・その他のイシダ、キャノンマシナリー、JXTG エネルギー、第一三共プロファーマ、中央エンジニアリング、西日本高速道路エンジニアリング関西、日鉄鉱業、パナソニック株式会社アプライアンス社、富士ゼロックス、富士フィルムメディカルとなっています。進学希望者は8名で、専攻科、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、徳島大学から合格を得ています。

各教員の担当や活動状況について説明します。中村厚信先生は5E担任として5年生の就職活動を支援しています。松本先生は創造技術工学科長として全コースにわたる運営に携わっています。さらに国際交流室長も務められ海外インターンシップへの学生派遣や海外提携大学からの短期留学生の受け入れなどを実現されています。長谷川先生は専攻科長補佐および2ESの担任として専攻科の運営に尽力されています。また、阿南高専リカレント教育「次世代光関連事業開発支援プロジェクト」に主導的に取り組んでいます。小松先生は4E担任として、インターンシップ派遣先の調整や報告会の実施などに取り組まれています。また、徳島県eスポーツ協会企画委員を務め、県内のeスポーツ・イベントにも参加しています。小林先生は学生主事補として日々の学生指導や蒼阿祭等イベント支援などに努力されています。西尾先生は教務主事補として教育カリキュラムの検討や成績評価方法についての改革などに努め

ています。藤原先生は3E担任および大学編入等の進学担当として、熱心に進路指導にあたっています。香西先生は寮務主事補を務め、寮生の指導および相談に対応されています。

最後に、悠久同窓会の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、電気コースからの便りとさせていただきます。



4E 研修旅行（四国電力伊方発電所内にて）

情報コース便り

情報コース主任

吉田 晋

悠久同窓会会員の皆様方、今年度から情報コース主任を務めております吉田です。よろしくお願いいたします。昨年度の本校主管の全国高専プログラミングコンテストは、「情報コース」の学生にとって大きな経験になりました。このコンテストを機会に、情報コースとIT企業との連携がさらに活性化しています。具体的には、阿南市や美波町など県南にサテライトオフィスを構えたIT企業と連携し、共同研究や勉強会の開催、プロコンや情報コースの学生との共創活動がスタートしています。

昨年度に続き今年度も情報コースの学生達は様々なコンテストに積極的にチャレンジし、多くの成果を挙げています。今年度の全国高専プログラミングコンテストでは、3年連続で課題・自由・競技の3部門に出場し、昨年度の課題部門の優秀賞に続き、自由部門で優秀賞を受賞しました。さらにNICT賞も受賞し起業家甲子園挑戦権を獲得しました。他にも、社会実装プロジェクト、防災チャレンジ、IoTコンテスト、ディープラーニングコンテスト、Web×IoTメイカーズチャレンジ、ICT(愛して)とくしま等のコンテストに参加しています。IoTコンテストでは、2年連続情報コースの学生が優秀賞を獲得しました。Web×IoTメイカーズチャレンジ徳島大会で、情報コースの学生が最優秀賞に選ばれ全国大会に出場します。今後とも、情報コースの学生達には、積極的に学外の評価を受ける場であるコンテストや学会発表にチャレンジしてもらい、エンジニアとしてのスキルを磨いてほしいと考えています。

ここで、コースの近況についてご報告いたします。杉野

先生は、地域連携・テクノセンター長に就任され、地域企業およびACT企業との連携および徳島県が採択された内閣府の地方大学・地域産業創生事業のリカレント教育の推進に活躍されています。田中達治先生は、本校OB・OGの取りまとめに加え地域連携部門長として、企業とOBと阿南高専のパイプ作りで活躍されています。福田先生は、5年生担任と就職担当として、学生の就職活動を支援してくれています。岡本先生は、教授に昇格され研究成果を活かし学生の様々なコンテストへの参加を支援されています。また、総合情報処理室長に就任され熱心に取り組まれています。福見先生は、寮務主事補として寮生の指導に取り組むと共に、研究にも力を入れて取り組まれています。安野先生は、教務主事補とワークライフバランス・男女共同参画責任者を兼務され、それぞれの改革に取り組まれています。平山先生は、4年生担任と進学担当、総合情報処理室、ホームページ担当など多くを兼務され、本校のホームページリニューアルに貢献されました。太田健吾先生は、3年生担任として学生との対話を尊重し、学生に寄り添う指導に取り組んでいます。

次に5年生の進路状況ですが、就職15名、進学17名の進路が決まっています。キャノン、ソフトサービス、FIXER、サイバートラスト、JBS、ジャパンコミュニケーション、エクセディ、セゾン情報システムズ、メンバーズ、NDK、エヌ・アンド・イー、富士通アプリケーションズ、マルホ発條、豊橋技科大、長岡技科大、千葉大、徳大、千葉工業大、専攻科などです。

最後に、悠久同好会の皆様方のご多幸と今後のますますのご発展をお祈り申し上げますとともに、今後の情報コースの発展に応援をいただけることをお願い申し上げます。



第30回全国高専プロコン3部門出場

岡技術科学大学に派遣されておりましたが、両名とも昨年度末に戻られて本年度当初より活躍されています。なお、池添純子先生が昨年度末にご出産され、本年度は育児休業取得されており、その間の代替教員として多田 豊先生を採用し勤務していただいております。建設コース内での主な校務を挙げますと、堀井克章先生が4C担任とキャリア教育・インターンシップ担当、松保重之先生が構造設計工学専攻科長補佐(2MC担任)、吉村 洋先生が専攻科長、森山卓郎先生が5C担任と就職担当・進学担当、加藤研二先生が寮務主事補、長田健吾先生が教務主事補、川上周司先生が3C担任とコーオプ担当、多田 豊先生が3C副担任を、それぞれ担当しております。

今年度の卒業予定者の進路は、県内就職が6名、県外就職が13名、進学が4名となっております。県内就職先は王子製紙(株)富岡工場、(株)大竹組(2名)、(株)フジタ建設コンサルタント、(株)Triple Five Corporation、阿南市職員、県外就職先は岩田地崎建設(株)、(株)大阪防水建設社、五洋建設(株)、(株)神鋼環境ソリューション、信幸建設(株)、住友不動産(株)、(株)銭高組、(株)竹中土木、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京水道サービス(株)、東洋建設(株)、(一社)日本血液製剤機構です。また、進学先は長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、首都大学東京、徳島大学です。学生への就職求人については、悠久同窓会会員の皆様の所属する企業からも多数の問合せや求人票をいただいております、非常に良好な求人状態が継続しております。

本年度の建設コースの行事としては、まず4月に建設コースに配属された2年生の歓迎会として北の脇海岸での測量実習後のバーベキューパーティーを行いました。本年度の2年生から建設コース定員が20名から24名となっております。さらに恒例行事として7月に3年生と4年生の各クラス学生に対して徳島県技術士会のご支援で行っている出前講座、9月には県内コンサルタントの方のご支援をいただいたの3年生を対象にした測量合宿、2年生と3年生を対象とした四国電力関連施設の見学、4年生対象の関西方面の研修旅行、さらに12月には建設球技大会など、様々な行事を活発に実施し、学生・教員の交流や絆を深めることに務めております。

最後になりましたが、今後も学生のためにより良い教育を目指して頑張っていきますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたしますとともに、悠久同窓会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



建設コース配属歓迎バーベキューパーティー

建設コース便り

建設コース主任

笹田 修 司

同窓生の皆様には、益々ご盛栄のこととお喜び申し上げます。建設コース主任の笹田です。よろしくお願い致します。

まず、建設コース教員の人事や校務等の近況についてご報告いたします。昨年度は、長田健吾先生が国立高等専門学校機構在外研究員として米国コロラド州立大学への留学、川上周司先生が高専・両技科大教員交流制度により長

化学コース便り

化学コース主任
吉田 岳 人

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。昨年度より引き続き化学コース主任を務めております、吉田岳人と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

化学コースは昨春、初めての本科卒業生を送り出しました。この一期生は、県内外の企業・大学で活躍するとともに、専攻科応用化学コースに進んで引き続き勉学と研究に励んでいる学生もいます。来年度も専攻科応用化学コース2年生向け授業を立ち上げなければなりません、これを達成し初めての専攻科修了生を輩出すれば、ようやく平成26年度に新設された「化学コース」が7年かかりで、一通り形を成したことになります。

次に本年度の本コースの教員とその担当を報告いたします。西岡守先生(5Z担任、就職担当)、吉田岳人(主任)、奥本良博先生(キャリア支援室長)、一森勇人先生(FD委員)、釜野勝先生(寮務副主事)、大田直友先生(3Z担任)、小西智也先生(教務副主事)、大谷卓先生(4Z担任)、鄭濤先生(学生主事補)、杉山雄樹先生(3Z副担任、進学担当)です。以上の教員で、授業(講義・演習・実験)、学生指導、校務運営に当たっています。授業内容は、設立以来の5本柱である、物理化学、無機化学、有機化学、生物化学、化学工学、環境生物学を、各学年進度に合わせて配置し、国立高専機構で定めた、モデル・コアカリキュラムをクリアできるよう進めています。

昨年後半から今年にかけて、量子コンピュータ実験機の性能が飛躍的に向上しているとのニュースが、連日のように新聞紙上を賑わせています。Googleによると従来(ノイマン)型コンピュータで1年以上かかる計算が3分で終了するとか、IBMからは、いや3年が3分に短縮されるレベルだ、などなど。いずれにせよ、今後20年以内に量子コンピュータが実用化汎用化されるであろうとのことです。これにより従来型コンピュータが初めて出現したとき以上の、大変革が計算・情報処理の世界にもたらされることが予想されます。化学関係では創薬開発、他に地球規模の気候変動や台風の予測、さらに地震の予測などの分野においても、ICT化が今後は劇的に進むと考えられます。



新2年生白衣着用式

本コースでは、50年後にも活躍できる化学系技術者・研究者の育成を目指して、その基礎となる量子化学の授業にも、先進的に取り組んでいます。

気になる本年度二期生の進路状況についてご報告いたします。卒業予定者24名の進路です。就職では、大塚製薬工場、ソルベイ・ケム・ジャパン、第一工業製薬、資生堂、三洋化成、東洋インキ、東亜合成、日東電工、日清紡ケミカル、小西化学工業、明治、日亜化学、四電工、環境防災などの県内外の有名企業に内々定者がでております(求人倍率約20倍)。進学では、神戸大理、岡山大工、豊橋技科大(GAC特別推薦)、徳島大理工、阿南高専専攻科などに合格しています。好調であった昨年度(一期生)に準ずる進路確保ができたことは、本コースの教職員のみならず、悠久同窓会会員の皆様をはじめとする学内外の方々の多大なご支援・ご協力の賜物であると感じており、心より感謝申し上げます。

教育・研究環境の整備としては、一昨年度に導入された有機化合物の構造解析において不可欠のNMR(核磁気共鳴)装置を初め、すでに創立50周年記念材料工学棟などに設置されている装置類(全19台)を、学生実験の段階から本コース学生が学びます。これら評価・分析機器類を地域企業などの方々にも広くご活用して頂き、共同で課題解決や新規事業のシーズを育てたいと考えております。

なお、創立50周年記念材料工学棟は、地域の多くの企業及び機関・団体様並びに卒業生を初めとする個人の皆様のご寄付により設立されたものであります。またNMR装置は日亜化学工業様のご寄付による材料化学(日亜化学)講座事業の一環として導入されたものです。改めて記して深い感謝の意を表します。

今後もこれまで同様、化学コースにご支援ならびにご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。末筆ながら、悠久同窓会会員の皆様の益々のご健勝とご清栄を祈念申し上げます。

広報情報室より

広報情報室長
錦 織 浩 文

広報情報室が開設されて11年目、令和元年度の広報情報室長を務めました。今年度の取り組みの概要をご報告いたします。

6~7月、例年通り、県内全中学校と淡路地域の中学校を訪問し、広報活動を行いました。また、10月、11月を中心として、27の中学校の進学説明会に出席し、説明を行いました。

6月~11月、高専説明会、及び入試説明会を開催しました。会場は、サンライズ淡路(6月、9月)、徳島市シビックセンター(6月、10月)、阿南高専(8月、9月、11月)、美馬市地域交流センターミライズ(9月)です。

9月、南部中学校への出前授業を行いました。今年度で6回目の実施となります。2年生6クラス約200名を対象に、機械、電気、情報、建設、化学、理科に分けて授業を行いました。生徒からは「楽しかった」「わくわくした」「阿南高専、工学に興味をもった」などの感想が寄せられました。

7月、第1回とくしまeスポーツフェスティバル（徳島市東新町）、11月、4K・VR徳島映画祭（神山町）に本校eスポーツ研究会とともに参加し、阿南高専ブースを構成、学校の紹介を行いました。

中学生人口の減少にともない、全国の公立高校の43%が定員割れとの報告がなされています。本校に対する中学生の志願者数も減少の傾向にあります。今年度に関しては6月よりも11月の段階のほうが入学志願者数は多くなっているとの調査報告を受けており、今年度の広報活動が一定の成果を挙げていると捉えることができます。

併せて、日本オリジナルの高等教育機関である高専が、近年、「KOSEN」としてモンゴル、タイなど、海外に輸出されており、そうしたニュースが「高専」の注目度を高めているのは確かであろうと思われます。

阿南高専卒業生の活躍がそのまま阿南高専の評価に直結することは改めて申すまでもありません。阿南高専が維持され、そしていっそう発展するために、悠久会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

クニック、台湾国立聯合大学など海外の大学でのインターンシップや国内の民間企業での実習によって、実際の生産、施工現場などにおける貴重な経験を積み重ねることができ、各自が専攻科で学んでいる専門的な知識を具体的に見聞することで、確実に自分のものとして吸収できているようです。また、創造設計工学演習（副専攻演習）の科目では、自身の専門コース以外の演習を行うことで、複眼的な視野が養われてきております。

2年生は、専攻科課程のまとめとして、各人のテーマでの特別研究に熱く邁進してきており、高専での学習・研究としての総まとめを迎えることができました。また、2年生の進路についても、お陰様で順調であり、長岡技科大大学院、豊橋技科大大学院、奈良先端科学技術大学院大学へ進学予定者がいるとともに、就職志望者も日亜化学工業㈱、富士通㈱、出光興産㈱などの県内外の企業に就職予定となっており、それぞれのところでの活躍が期待されます。

これからも、専攻科での教育・研究環境を整え、より高度な技術者教育に努めてまいりたいと思います。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、悠久同窓会の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。

専攻科より

専攻科長

吉 村 洋

悠久同窓会の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。本年度の専攻科長を仰せつかりました吉村と申します。よろしくお願い申し上げます。

専攻科は本年度4月から改組され、これまでの構造設計工学専攻、電気・制御システム工学専攻の2専攻から、創造技術システム工学専攻の1専攻となり、機械システムコース、電気電子情報コース、建設システムコース、応用化学コースの4コースで構成されております。

改組された創造技術システム工学専攻の1年生は機械システムコース（AM）4名、電気電子情報コース（AE）10名、建設システムコース（AC）2名、応用化学コース（AZ）2名の18名が在籍し、1AM・1AC・1AZの担任が松浦史法先生、1AEの担任が安野恵実子先生となっております。また、2年生は構造設計工学専攻（MC）に15名、電気・制御システム工学専攻（ES）16名が在籍しており、それぞれ2MC担任が松保重之先生、2ES担任を長谷川竜生先生が担当しております。

1年生は9月から3か月の間、インターンシップ期間となっており、今年度もシンガポール・リパブリックポリテ

会 員 だ よ り



近 況 短 信



昭和43年度機械 森 岡 和 美

悠久同窓会会員の皆さまお元気ですか。私は8年前に脳梗塞になり、後遺症で右手、右足が不自由になり、現在もリハビリ通院しています。

リハビリも兼ね左手でパソコンを操作し、地元の地域おこし住民団体「加茂谷元気なまちづくり会」の事務局応援で資料作成をしたり、近況など綴り地元の新聞に投稿したりしています。また阿南高専の情報コース・プロコン合宿が加茂谷で行われたときは、そのお世話などもしています。

今年も、例年同様、最近の新聞投稿作品から抜粋し、近況報告とします。

会員皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、悠久同窓会の益々のご発展をお祈りします。

【通信Ⅰ】平成30年11月7日 記

再生エネルギー利用の促進を！

九州電力が、太陽光発電の一部の事業者に、一時的ではあるが、稼働停止を求める措置に踏み切った。昼間に供給電力が需要を上回り、電力が余り、受給バランスの崩れで大規模停電発生の恐れがあるという。電力不足で大規模停電が起こると言われると、そうだろうと思うが供給電力過剰で停電すると言われても、どうもピンとこない。

電力は需要と供給が常にバランスすることが基本で、そのため火力発電の出力抑制や余剰電力で発電用の水をくみ上げる揚水の活用などで対処してきたが限界とのことだ。四国電力でも伊方原発4号機が再稼働後は同様の措置を講じることがあるとしている。

資源が乏しい日本で、すぐ使える自然のエネルギーを捨ててしまうのは、何とももったいない話だ。最大限活用する方法を考えることが重要だ。今後再生エネ利用を伸ばしていくには、天候や昼夜による出力変動をならすための大容量の蓄電池や揚水発電がある。また広域の送電線網を通して電力不足の他地域におくるのも有効だ。ただ設備の増強には多くの費用がかかりだれが負担するかも合わせて検討が必要だ。

政府が今年改定したエネルギー基本計画は、再生エネの主力電源化を目指す方針である。その障害になりつつある

原発依存度を下げ、将来は安全で地球環境にも優しい再生エネ主力化を目指すべきである。

【通信Ⅱ】平成30年12月6日 記

安全重視、取り戻せ品質日本

「この飛行機は墜落しない」「この船は沈まない」「この列車は脱線しない」こう考えて皆、利用している。交通手段だけでなく、全ての面で社会の安全は、部品が定められた規格通りに造られて、定められた通りの作業標準で組み立てられているという品質信頼の上に成り立っている。

ところがどうだろう。昨今の社会情勢を鑑みると、この前提条件を根底から覆すような事象が多発している。無資格者による自動車の完成検査やブレーキ検査の不正、素材メーカーにおける品質データの改ざん、車両の異状を無視したダイヤ重視の新幹線の運行強行、免震装置の不正等々数えあげればきりが無い。しかもそれらがいずれも一流といわれる大企業で頻発しているのである。

「品質の日本、安全重視の日本」といわれたあの「日本」はどこへ行ったのだろうか？

装置の中に一つでも定められた安全品質基準を満たさない部品があれば装置全体の安全性は著しく低下し、予期せぬ事故に繋がる。安全は、個々の部品の品質の集大成であることを肝に銘じ、全ての人が、「安全最優先」の精神で業務に取り組み、品質日本を取り戻さなければならない。

【通信Ⅲ】平成31年2月16日 記

3 択沖縄県民投票に違和感

沖縄県宜野湾市にあるアメリカ軍の普天間飛行場を名護市辺野古に移すかどうかの問題で、賛否を問う県民投票が24日に行われる。投票では、辺野古の海の埋め立てについて「賛成」「反対」「どちらでもない」の三つから一つを選ぶようになっていきます。この選択肢に違和感を持つのは私だけでしょうか？

「どちらでもない」と言えば、「賛成」「反対」の他にもう一つ何か答えがあるのですか？と誤ってしまいます。投票する方の気持ちとしては、色々な考えが頭の中を駆け巡り、悩み考えたが「賛成、反対、どちらとも言えない」ということではないのでしょうか？

確かに悩ましい問題です。沖縄県民の方にだけこの選択、決断を委ねて良いのでしょうか？すなわちこの根底にあるのは、辺野古の埋め立ての賛否うんぬんという問題だけで

はありません。全国民が日米同盟を今後どうするのか、日本の国防の在り方を今後どのようにするのか、ということを実際に考えなければならない時期にきているということを実感しなければなりません。

政府は、県民投票の結果に拘わらず粛々と埋め立てを進めると断言しています。このことも県民投票のもつ意義に疑問を感じます。国と県はこのような状態で、県民に投票させることに疑問を感じないのでしょうか？もっと県民の心に添った形での着地点を探らなくてはなりません。これでは判断を委ねられる県民はたまりません。県民本位の終着駅はないのでしょうか？

【通信Ⅳ】平成31年2月28日 記

再生可能エネルギーの利用拡大に期待

このところ地元新聞紙の1面トップにバイオマスエネルギー利用の記事が掲載されている。2月26日は「津田の木質バイオマス発電所」、同月28日は「竹粉燃料エンジン開発」の記事だ。いずれも本県には豊富にある自然エネルギー源でその利用方法が開発されることは非常に好ましいことだ。他にも竹を燃料にしたバンブーバイオマス発電の事業化構想もある。

木質バイオマス利用は、間伐材の利用や製材端材の活用が可能になり新たな雇用や価値を生み出す。放置竹林も見方によれば石油代替品の宝の山だ。石油や石炭のように枯渇するものでもなく、短いサイクルで再生可能な資源であり、排出される二酸化炭素も森林や竹林が大気中から取り入れて固定したものに由来しており、環境にも優しい。

他にも日照に恵まれる本県は太陽光発電、また中小の河川や谷の多い地形は小水力発電にも適しており、伊島では阿南市が潮流発電や波動発電の実証実験を行っている。

環境に優しい自然エネルギーの宝庫である本県は、再生可能エネルギー利用のトップランナーを目指すべきである。

【通信Ⅴ】平成31年4月1日 記

古希の年 新元号と共に歩む

新元号が「令和」に決まった。出典は万葉集で、「初春の令月にして、気淑く風和ぎ」から2文字が取られた。安倍晋三首相は「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」と込められた意味を述べている。

昭和24年生まれの私は、昭和で40年間、平成で30年間過ごしてきた。そして今年は古希の年であり、また生前退位による改元は202年ぶりのことで、加えて私の名前の1字「和」が元号に使われ、正に「古来希なり」が三重にもなる感慨深い年になる。

昭和から平成に変わったのは、正月明けの1月8日であった。当時、私は阿南市消防団員で、出初式は例年1月8日に行われていたのだが、その年は中止で自宅待機になった記憶がある。会社でも天皇陛下の崩御で「喪に服す」ということで、新年会も中止にした部署が多かった。

今回は5月1日の改元まで1ヶ月の準備期間があるし、生前退位ということで、明るい雰囲気の中で迎えられるのは好ましいことだ。私の70代が新元号と共に始まる。どこまで年齢を重ねることができるか分からないが、少しでも地域のお役に立てるように新元号と共に歩みたいものだ。

【通信Ⅵ】令和元年6月8日 記

老後の生活設計 共有が大事

夫婦で老後30年間生活するには、公的年金だけでは2,000万円資金が不足するから蓄えが必要だとの報告書が金融庁から出た。政府は公的年金財政について「100年安心」とアピールしてきた手前、厚労省は言いにくいから代わりに金融庁が発表したのかと勘ぐりたくなる。

どちらにしてもこのままでは年金財政が持たないことを政府が認めたことになる。その対策が自助努力で乗り切りたい、ということだけでは国民は納得できないであろう。社会保障財源確保のための消費税増税を目前にして年金財政対策で、唐突に自助努力が必要といわれても国民は困ってしまう。

消費税アップ後の年金財政見通しや老後の生活設計をきちんと示し、国がやること、国民に自助努力を要請することを整理して共有しなければならない。

以前勤めていた会社では、昭和50年頃から労使で生涯生活ビジョンを策定し、老後の生活資金として30万円年金/月を目標におき、公的年金の不足分を退職金（本人の希望で年金選択も可）及び自助努力年金で賄うとの制度設計を行い福祉諸制度の充実を労使が共有して進めてきた経緯がある。目標を示し、お互いが果たすべき役割分担を明確にし、共有することが肝要である。

【通信Ⅶ】令和元年8月5日 記

「100年の計は人を育てるにあり」

「一年の計は穀を樹(う)うるに如くはなし。十年の計は木を樹うるに如くはなし。終身の計は人を樹うるに如くはなし」ということわざがあるように、国家100年の計は、人材を育てることに尽きると言われて久しい。

まさに教育の在り方はその国の100年先の命運を左右するといっても過言ではない。義務教育を終え、更に高度な教育へのステップである高校教育は、教育界においても、また個人においても、将来を方向づける重要な教育段階である。

このほど徳島県教委が公立普通高校の学区制見直し案を提示した。それには高校教育のより良い在り方を考慮して改善すべき方向性を示したものであると思われる。これを決定した県教委臨時会の議事録についての情報公開請求に対し、委員の発言内容を全て黒塗りにして開示した。「県民の誤解や憶測を招き、不当に混乱を生じさせる」というのがその理由である。

委員の発言が、誤解や憶測を招くような内容であったとは思われない。そんな意見で決まったのであれば、まさに本末転倒、言語道断だ。委員自身が教育理念と信念に基づき述べ

た意見が黒塗りで開示されることを望んでいるのだろうか。決してそうではないと思う。県教委は議事録をきちんと開示し、決定に至った経緯を県民に公表すべきである。

【通信VIII】令和元年8月13日 記

学生受入で田舎に活力

この8月23日から9月12日にかけて、東京の武蔵野大学から5班に分かれて78名の学生が、農業体験ボランティアとして加茂谷地区にやってくる。今年で6年目だ。最初の平成26年は受入直前に台風10号の豪雨により、那賀川が氾濫し、加茂谷地区は甚大な浸水被害を受けた。彼らが災害復旧ボランティアとして来場、農業施設の片付けや復旧を通じて被害に沈んでいた加茂谷地区に希望と勇気を与えてくれたことは今もなお記憶に新しい。今年もお盆に台風の襲来が予測されており心配なところではある。

平成26年大洪水以後、深瀬地区では堤防が完成、加茂地区も堤防工事が進められており、少しずつ洪水被害の危険から守られつつある。今年は猛暑に見舞われ厳しい暑さのなかで、学生たちは、すだち収穫、葉物野菜の種蒔き、イチゴ苗の手入れ、菌床椎茸栽培、肉牛の世話、農業用ハウスの整備などを体験する。彼らの来場は普段若者の少ない中山間地域に元気と活力を与えてくれる。80歳を超えて夫婦でイチゴ栽培を営む農家では、孫娘がきたようだと喜んでくれ、また学生も80歳を超えてなお現役という田舎パワーに驚いている。住民と学生がお互いに刺激しあい、活力を生み出している。期間中事故無く無事農業体験が終了し、双方に良い思い出が残るように願っている。

【通信IX】令和元年8月31日 記

源流に寄せる想い 孫につなぐ

那賀川をこよなく愛する流域住民団体「那賀川アフターフォーラム」が、数度の調査の後、那賀川の源流を特定し、流域の一体感醸成、流域のシンボルとして、源流碑と源流モニュメントを平成17年10月に建立した。

源流碑建立以来、平成18年より毎年、春には、「那賀川源流碑開き」として、源流碑前で流域の安全祈願祭を開催、参加の上下流域小学校の校歌・学校紹介の交流会・清掃活動及び源流水質検査の実施により、源流域の環境保全と源流域への関心の高揚に努めている。また秋には源流域で流域交流促進として「源流コンサート」を開催している。

昨年、この源流碑開き、そして源流コンサートにピアノ演奏で参加した孫（中学3年・男）が、このほど源流に寄せる想いを綴って、全日本中学生水の作文コンクールに応募したところ全国3席に入選した。彼は、「世代を超えて水に感謝する想いを共有し、引き継ぎ、さらに広げていきたい。川への理解が深まり水質改善の進む社会になって欲しい」と決意をつづっている。

同フォーラムの事務局として事業推進の一翼を担ってきた小生としては源流、川に寄せる想いが世代を超えて孫に

引き継がれることに、まさに「我が意を得たり」と活動への決意を強くしている。

【通信X】令和元年10月5日 記

ラグビー解説者 大忙し

ラグビーW杯が日本で開催中である。1次リーグA組で、日本は、ロシア、アイルランド、サモアと連覇し、10月5日時点で勝ち点14となり、A組の首位になっている。特に第2戦で格上のアイルランド（対戦時世界ランキング2位）に勝ったことは、前回大会で南アフリカに勝った時と同様に世界から「歴史的勝利」と称賛されている。

我家でも普段、国内のトップリーグの試合を私がテレビ観戦していると、「ラグビーのどこが面白いの？」と妻や母親が聞いてくる。17歳から40歳過ぎまで現役ラグーマンであった者としては、じっと我慢の日々であった。

ところがどうだ。日本の快進撃に刺激を受けたのか、サモア戦を観戦していると、母親、妻、長男の嫁、孫がテレビにくぎ付けだ。そして、「ルールがよくわからん」と質問を浴びせてくる。トライ、ゴールの得点の入り方、ノックオン、スローフォワード、オフサイドなどの違反やスクラム、モール、ラック、ラインアウトの説明等、解説者は大忙しだ。最終戦のスコットランド戦（13日）で勝ち点2を確保すれば、念願の1次リーグの自力突破が決まる。まだまだ解説者は忙しい日々が続く。

【通信XI】令和元年10月20日 記

地域社会の維持は住民自身の手で

徳島そごう店の来年8月末の撤退が決まり、波紋が広がっている。しかし考えてみればその結末は県・市・県民自らの行動が巡り巡って招いた結果と言えないこともない。百貨店の出店当時、都会化、玄関駅前のシンボルとして、もろ手を挙げて歓迎してきた。その陰で、消えていった地元商店も少なくはない。「企業30年説」といわれるように企業が永遠に続くという保証は何処にもない。収益を重視し、常に経営は「機を見るに敏なり」で、儲けにならないと判断すれば即撤退だ。後に残るのは、債務と消費者の不便だけだ。

少し安いからとわざわざガソリンを消費して車で遠くの大形店に買い物に行く。そしてだんだん地元の商店が少なくなる。年を取って車にも乗れなくなって気が付けば、地元商店が無く、買い物ができない事態になっている。そうやって地方はだんだん疲弊する。

地域に根ざした地元の資本、地元のお店がきちんと営業できるように、地域経済の循環を地域で維持していく姿勢が、地域を守る原点だと思う。地域社会の維持・継続は、地域住民自身の手にあることを忘れてはならない。

【通信XII】令和元年10月29日 記

閣僚の資質疑う不適切発言続く

安倍改造内閣の不祥事が続く。つい先日、香典にからむ公職選挙法違反を問われ、菅原一秀前経産相が辞任したか

と思えば、今度は不適切発言の連発だ。

大学入学共通テストの英語で導入される民間検定試験に関して、「身の丈受験すれば良い」と萩生田光一文部科学相は発言している。経済状況や居住地による受験の不公平を容認したかの発言で、憲法に定める「学問の自由、均しく教育を受ける権利」や教育基本法の「機会均等」を脅かすもので許されるものではない。萩生田氏は、加計学園獣医学部新設計画に絡み、関与が取り沙汰された経緯もあり、もともとその文部科学相就任には疑問がもたれた経緯がある。

更に重鎮閣僚であり外相経験者でもある河野太郎防衛相は、自身の政治資金パーティーで「私はよく雨男と言われる。防衛相になってからすでに台風は3つだ」と発言。身内ばかりの会合で、向こう受けを狙っての軽口であろうが、台風被害の後片付けに追われ日々の生活もままならない被災地住民はどんな思いでこの発言を聞いたであろうか。安倍総理が即位礼で、国民に寄り添い美しい日本の建設に邁進すると天皇の前で宣言したことをどう考えているのだ。閣僚はそれに相応しい言葉と振る舞いで国民のために尽くさなければならない。今回の発言はその資質が疑われるものだ。

【通信XIII】令和元年11月13日 記

移住者パワーが地域活性化に一役

阿南市中山間地の加茂谷地区、御多分にもれず少子高齢化の波はひたひたと押し寄せている。現在人口1957人、ここ5年間で人口は203人減少、毎年40人ずつ減っている勘定だ。地区内の大井小学校も少子化で、1994年から休校となっている。

地元の地域おこし住民団体「加茂谷元気なまちづくり会」もこういった事態の対策として移住・就農に力点をかけた活動を展開しており、ここ7、8年で14家族56人が移住してきている。水井町では、それまで小学生以下の子どもが一人であったのが、現在は15人となり町内が元気に賑やかになっている。

移住者グループより、休校中の大井小学校を活用して地域の活性化を図ろうとの提案があり、平成27年より音楽とマルシェのマッチングイベント「カモン！加茂谷かもフェスタ」がスタート、今年も11月3日に第5回目が開催された。企画・立案・運営も移住者が中心となって進め、会場設営、場内警備、駐車場案内など地元まちづくり会が協力して行う住民・移住者協同の手造りイベントだ。以前小学校の運動会が開催されていた時にタイムスリップしたかと思うような歓声と歌や踊りが紅葉に彩られた山あいのグラウンドに響き渡る。移住者パワーが地域活性化の大きな力となっている。

【通信XV】令和元年11月19日 記

桜木のように散り際は潔く

「花は桜木、人は武士」といわれるように、桜の花はその散り際は潔く、武士はその死に際が潔いことをさして

いる。潔さの象徴でもある桜を巡る昨今の首相周辺の動向は何とも始末が悪い。首相主催の「桜を見る会」の招待客の人選の不明瞭さやその前日の安倍事務所主催の食事会の会費を巡る会計の不明朗さが野党の追及を受けている。

東京の一流ホテルでの夕食会の会費が、「5,000円では安すぎる、後援会や安倍事務所からの補填があったのではないか？」との追及に、安倍首相は、「補填は無く、後援会の収支も一切ない。よって費用の明細書も無い」と答弁している。田舎の懇親会でも会費5,000円は必要だ。常識的に考えて不足金をなんらかの形で補填していると考えるのが普通だろう。よしんば後援会や安倍事務所の収支が無いとしても、ホテル側は収支明細をつくっているはずであるから、やましいことが無いのであれば、それを貫いて公表すれば良い。桜の花に笑われないように、ここは潔く真実をつぶさに開示し、出处進退を自ら決断すべきだ。このままでは、新宿御苑の桜も来春は、咲くのをためらってしまうだろう。

【通信XV】令和元年12月16日 記

令和時代に相応しい政治姿勢を

「令和」時代となり8ヶ月が経過した。新元号について、安倍首相は談話で「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」と解説していた。そして新元号に込めた願いを「悠久の歴史と薫り高き文化、四季折々の美しい自然を、しっかりと次の時代へと引き継いでいく。厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりの日本人が、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたいとの願いを込め『令和』に決定した」と語った。

翻って安倍首相の政治姿勢を見るにつけ、新元号の意味するもの、その込められた願いからは、かけ離れたものとなっている。沖縄の普天間基地移設に伴う埋め立て強行の傲慢姿勢をみても、県民投票の結果を真摯に受止めると言うが、「美しく心を寄せ合う」どころか、沖縄県民の心を土足で踏みじっている。また森友、加計問題にしても何ら国民の納得するような説明責任を果たすことなく葬り去ろうとしている。更に桜を見る会の招待客の人選の不明朗さや前夜の自身の後援会懇談会費の不明朗さにおいてもしかりだ。

新元号に合わせて「一人ひとりの日本人が希望をもってそれぞれの花を大きく咲かせることができる」。来年はそんな令和時代として欲しいものだ。



勝手に書きます！
 言いたい放題名作映画紹介

昭和43年度機械

乾 寛

第5回

今回で連載5回目である。10回を目標に投稿を開始したが、あっという間に半分の5年目である。今回も絶対に満足してもらえる（まさに独断ですが）洋画邦画それぞれ珠玉の1本を紹介したい。両作品とも古い映画であるが、家族、特に父親とその子供との愛情物語である。ベースはまさに教育映画そのもので、他人には親切にしましょうとか弱い人を助けましょう、ということがテーマになっているが、しかし世の中自体がそんな理想的な環境になっているはずがない。子供から大人への成長につれてだんだんと世の中の実態が分かってきて、自我が生まれ、さらに思春期とぶつかる。70を過ぎた老人になっても、あの時の何とも言えない甘酸っぱさというか、親や世間に対するわけのわからない反発心というか、そんなものが実に懐かしく感じられる。あの頃は本当に純真だった。そんな郷愁が間違いないと感じられる映画である。毎回、駄文をかなり長く書かせてもらっているが、今回もいつもどおりの長編である。「もっと簡潔に紹介せよ」という声も聞こえそうだが、タイトル通り勝手にあり、それだけ思い入れが強い、と容赦して欲しい。

「アラバマ物語」1963年 ロバート・マリガン監督
 グレゴリー・ベック

余計な話かもしれないが、この映画を知ったいきさつから書きたいと思う。コマツで働いていた30代の終わり頃だったと思う。無人ダンプトラック開発の特別チームに所属し市場導入を担当した。最近やっと自動車の無人運転化が進んできたが、建機は公道を走らないのでその分制約が少なく、すでに30年前には試作車が完成していた。狙いはオペレータ不足と鉱山の生産コスト削減である（海外では重機のオペの給料は結構高い）。当時、イギリスのBBCが国内のテスト稼働現場に取材に来たのだが、その映像も活用してPRビデオを作成することにした。当然英語版となるため、アメリカから出張か何かで来ていた若い女性にナレーションを依頼した（制作費用削減のためできるだけ社内調達）。飲み会か打ち合わせの時に、たまたま「今までに見た映画で最も印象的だった映画は何？」と聞いたら、彼女は「to kill a mockingbird（アラバマ物語のオリジナルタイトル）」と間髪を入れずに答えたのである。mockingbirdとは鳥のツグミのことである。ところが、僕にとっては聞いたこともない題名である。彼女にとってそれほど印象的だったからには、これは間違いないとおもしろい映画に違いない、とすぐにDVDで確

認した記憶がある。それが初めて見たいきさつであるが、期待通りであった。ちなみに、当時、市場調査と販売活動も兼ねてアメリカのユーザーを回ったのだが1台も売れなかった（簡単に売れるはずがない）。そのあたりの詳細については省略するが、今振り返ってみると反省点ばかりが思い出される（最近になってコマツの戦略商品に育ってきて感慨深い）。そして、アメリカで最初に訪問した場所が偶然にもアラバマ州のハンツビルであった。そのため、この映画を見るに付け、当時の仕事の不甲斐なさが、自身の「アラバマ物語」として思い出されるのである。しかし、このタイトルはオリジナルに較べて、なんと素っ気ない邦題だろうと感じる。誰が付けるのか知らないが、全くセンスがない。映画の中身がある程度表すタイトルにすべきではないか、とも思うが「ウエスト・サイド・ストーリー」には全く違和感はない。文句を言う筋合いではないか。

さて、前置きは長くなったが紹介に入る。世界大恐慌直後の1930年代、アメリカ南部アラバマ州の田舎町が舞台である。当然みんな非常に貧しい環境の中で生活している。その町の弁護士一家、父親とその子供たち（兄妹）の日常生活を中心とした物語である。父親アティカス役がグレゴリー・ベック（最高に格好いい。この作品でアカデミー賞主演男優賞に輝いている。）、兄ジェム12歳、妹スカウト6歳で、4年前に母親とは死別している。この映画のテーマを一言で言えば「正義」である。まさに「文部省特選」とも言える典型的なオススメ映画である。そしてそのテーマに付随して、天真爛漫な子供が次第に現実の社会に目覚めていく成長過程がしっかりと描かれている。その正義は、個人的な判断ではあるが「子供の場合」と「大人の場合」の2種類が並行して進んでいく。映画の前半は子供の場合だ。隣に得体の知れない人が住んでいる。怖いおじさんが住んでいて、その息子も怪物のようで家に引きこもっており滅多に外に出てこない。大人たちの評判も良くない。すると子供たちは遊びの一環としてその家族を特別視するようになる。ドアを叩いたり無断で庭に忍び込んだり、いわゆるちょっかいを出す。たわいもない悪戯であるが子供たちの日常生活が淡々と描かれていく。僕らの子供の頃にも似たようなことがあった。古い廃屋のような家に住んでいる人とか、障害のある人には嫌悪感を持ったり、なんとなく見下すような態度をとっていた。これは「いじめ」や「差別」に通じることであり、まちがいなくいけないことではあるが、現実には確かにあった。怖いことに挑戦したり、自分の思い通りに行動することが子供の世界の正義だった。

後半に入って、今度は「大人の正義」の場面となる。黒人の男性トムが白人の若い女性を襲った事件の裁判が始まる。アティカス弁護士はトムの弁護を担当するが、この裁判場面がこの映画の中盤のハイライト場面である。どんな裁判映画でもそうだが、告発側、弁護側の議論の応酬は面白い。アティカスの弁論は理論的で説得力抜群である。この場面のやり取りをぜひ楽しんでほしい。アメリカの裁判

は陪審員が判決を出す。アティカスの弁論は巧みでトムは無実には違いないのだが、結果は「有罪」となる。当時のアメリカ南部ではまだまだ根強い黒人に対する差別意識が残っていたであろうし、自分たちの貧しさのほけ口を求めたのもあったのかもしれない。このことがタイトルの意味である。ツグミのように何も危害を与えない鳥と無実のトムが重なる。そしてその直後、さらに悲劇が起こる。もうやりきれなくなってしまうが、その事件はここでは伏せておく。

そして、最後のクライマックスにつながっていく。ハロウインの準備で遅くなったジェム、スカウト兄妹を、暴行された若い女性の父親が襲うのである。トムは有罪となったが、その男はトムの弁護をしたアティカスが憎くてたまらない。ありえないことだがその憎しみは子供に向かい、なんと刺し殺そうとしたのである。この設定はちょっと異常と思うが、極端に貧しい環境下では自暴自棄になったこういう人が現れても仕方がないのかもしれない。しかし、幸いに子供たちは見知らぬ人に助けられるが、実はその人は彼らが「変人」とみなしてきた隣の住人の息子だったのである。彼は極端な恥づかしがり屋だった。そういう点ではちょっと変わった人ではあったのだろう。しかし、彼は子供たちに変人扱いされていたことは知っていても決して悪人ではなかった。むしろ、となりの子供たちを温かく見守っていたのである。そのあたりの伏線が物語の前半にいくつも散らばっている。兄のジェムは腕を骨折する大怪我を負うが、結局犯人は返り討ちにあって刺し殺されてしまう。一部始終を見ていたスカウトは、今まで馬鹿にしていた隣の住人の真の姿を知り、心からの感謝の念を抱く。

以上があらすじである。黒人差別撤廃という社会のあり方を真正面から取り上げている。前にも書いたが、タイトルの mockingbird とは黒人トムのことである。社会に何の害も与えない鳥を殺すなんてことはあってはならない、とアティカスは子供たちに話す。それと並行して、子供たちを守った隣の恥づかしがり屋の住人にも重ね合わせる。彼は、実はある種の精神障害者のように描かれており、黒人と同様に一般的には差別を受けがちな立場であるが、誰にも危害を加えるようなことはない。結果的には殺人を犯したのであるが、子供たちを助けるために悪人を殺した、つまり正義を行ったので裁くべきでない、とスカウトは父親のアティカスに囁く。アティカスも頷くのだが、この場面には微妙な違和感が残る。小学校低学年でこんなにませた(?)判断ができるのだろうか、と。たまたま僕には今年小学校に入学した孫娘がいるが、同じ境遇にあってもただ泣き続けるだけだろう。まだまだ幼くスカウトの足元にも及ばないが、みんなそうだと思う。さらに、アティカスが子供たちに話した時には「to kill a mockingbird」と言うが、スカウトがアティカスにつぶやく場面では「shooting a mockingbird」と言う。同じ意味なのだろうからこだわることはないかもしれないが、ラストシーンでの言葉ということから、タイトルとしては後者の方が格

段にいいと思うのだが…。

さらに勝手な考察を進めたい。実はある伏線場面が物語の始めの方にある。住宅地に狂犬が現れるのである。家政婦から連絡を受けたアティカスは職場から急遽駆けつけ、躊躇なくその犬を銃で撃ち殺してしまう。その後、スカウトの同級生を食事に招待するのだが、彼は非常に貧しく食料のため銃でうさぎやねずみを撃つと話す。そこでアティカスは言う。「私も子供の頃に父親から銃を授かり、アオカケスを撃つ練習をした」と。そしてさらにキーセンテンスの「でもツグミは綺麗な声で鳴き、人に害を与えないから撃ってはダメだ」と。この判断基準は屁理屈としか思えない。ネットで調べてみたが、アオカケスだっていい声で鳴き人に害は与えない。ただ体長30センチもあるらしいから、うさぎと同様食料用だったのかもしれない。だとすれば、人間が生きていくためには、害を与えないうさぎやねずみもアオカケスも、狂犬と同様に殺しても構わない、ということになる。ここにアメリカの精神を垣間見る感じがする。善と悪の基準が個人の固定観念で明確に決められておりブレがない。そして、トムを冤罪にも関わらず訴えた男は「悪」そのものとして描かれている。狂犬と同じ扱いである。殺されてしかるべきだ、と。その昔、アメリカに渡った移民たちは貧しく、そうせざるを得なかったのだろうが、原住民を力任せに排除して建国した。インディアンはアオカケスなのか。ツグミだったのではないか。貧困にあえぐ大多数の町の人にとっては、黒人もアオカケスなのか。町の白人住人すべてを敵に回してもトムを守ろうとするアティカスは紛れもない正義漢であるが、インディアンも守っただろうか。なんとなくすっきりしない感じも残るのである。

アメリカの裁判は陪審員制度であり、無実であっても陪審員がそう思わなければ、いや、有罪にしたいと思ってしまったなら、無罪は勝ち取れない。宣誓を行い、「人は神の下ではすべて善人である」という性善説が根拠になっているのだろうが、こんな危なっかしい制度はない。自分の利益にならないことは避ける、ということが人間の行動原理であり、黒人は我々の仲間ではない、という風潮が固定している社会では黒人が無実になるわけがない。陪審員にとっては黒人もアオカケスも同じなのである。正常かつ公平な判断力というか良識のある陪審員を選ぶということが最低限の基本であろう。話は飛躍するが、陪審員も政治家も市民、国民の代表である。当然、それなりの資質を備えた人になるべきであるが、今の国会はかなり疑わしい。この文章を書いている時期は投稿期限直前の11月中旬であるが、久々に見た国会中継には失望というか憤りさえ感じる。もちろん今に始まったことではないが、議論が全く噛み合っていないことに腹が立って仕方がない。右とか左とか、その主張の事を言っているのではない。そのこと以前に、議論そのものが成立していないのである。答弁者は書面の棒読みでトンチンカンな答えをするし、質問者の追求も今ひとつ。はっきり言う。彼らには全く議員の資格はな

い。最高レベルで議論されるべき国会中継を、小学校や中学校の社会科授業で生きた教材として使ってみたらどうか。純粋な子供たちはどんな反応をするだろうか。先生はどんなコメントをするのか。すばらしい教材となるに違いない。にもかかわらず、当の政治家たちには何の反省もなさそうだ。支持率は落ちないし、次の選挙でも当選するだろう、とタカをくくっている。これは選挙民が馬鹿にされているってことである。そして、さらに問題なのは、こうした状態が異常事態だと分かっているにもかかわらず誰も問題提起しないことである。テレビをはじめとする一般メディアもそうだが、半数近くが選挙にも行かない。アラバマ州の陪審員も国会議員も資質がなければ、せつかくの裁判や民主制度も全く機能しない。そして、その責任は選ぶ人にある。

話がかなり脇道にそれたが、最後に印象深いラストシーンを付け加えたい。正当防衛で殺された男について保安官は「彼は自分のナイフの上に自分で倒れて自滅した、死人に口なしだ」と事実を隠蔽しようとする。全体を丸く収めようとする話に、本来なら反対すべき正義漢弁護士アティカスは静かに聴いているだけだ。その苦悩が彼の背中だけしか撮さない画面に現れている。そして彼はスカウトに話しかける。ここがポイントである。彼女を椅子の上に立たせ、自分と同じ目線にして話すのである。子供ではなく、一人の成長した人格者として扱う。今回初めて気付いたが実にいい場面である。彼女は言う。「保安官の言うとおりにしましょう、犯罪者として捕らえることは shooting a mocking bird と同じことですよ」と。彼は娘の言葉にしたがう。結局、自分の家族を救ってくれたのだから、と事実を隠蔽してしまう。表面的には「めでたし、めでたし」なのだが、やはり一種の違和感を持ってしまう。社会の正義漢としてはどうなのか、と。家族は絶対に守るのだ、というアメリカ的な個人正義そのものではないか、と。そして、タイトルよりも印象深い最後のセリフが発せられる。成人したスカウトが昔を振り返った形で静かに言う。「父に言われたわ、人の立場に立って考えなさい、と」。「ツグミを殺してはいけない」云々よりも、「ツグミの立場になれ」の方がよっぽど本質を突いている。

古いアメリカ映画にはこういった正義をテーマにした秀作が多い。「スミス都へ行く」「紳士協定」「12人の怒れる男たち」…。「アラバマ物語」もそうだが、著作権の期限も切れているようでDVDは500円で買える。

「泥の河」 1981年 小栗康平監督
田村高廣 藤田弓子

公開された年のキネマ旬報第1位であり、その年の映画賞を総なめにした作品である。納得である。見終わった後の静かな余韻と懐かしさにどっぷりと浸ってほしい。主人公の信雄君は田村高廣演じる父親と藤田弓子演じる母親の一人息子で小学校3年生である。舞台は昭和31年夏の大阪であるから僕ら団塊の世代とほぼ同年代である。服装は毎日ランニングシャツと半ズボンであり、僕らの子供時代の生活と完全に重なる。毎日そんな姿で塩田や砂浜を走り回り、家に帰ると母親に「はたき」で泥とか汚れをはたかれていた。そんなことから自然と映画の中に没入できる。世代が違うとわかりにくいと思うが、大相撲の栃若戦やラジオドラマの赤胴鈴之助なども挿入されており、さらに懐かしさを掻き立てられる。戦後10年経った頃でまだまだ貧しかったが、経済成長が始まり景気も良くなり始め、「もはや戦後ではない」と言われた頃である。しかし、それと並行して戦争の爪痕もまだまだ生々しく残っており、そんな中で物語は始まる。

信雄の家は川沿いの大衆食堂である。馬車の運送屋がかき氷を食っている。その食堂の馴染みらしく父親と世間話しをしているが、時代の流れもあって中古のトラックを買うことにしたようである。確かに、いつまでも馬車でチンタラ運んでもどうしようもないだろう。ところがその後、店を出たところで車輪がぬかるみにはまってしまい、そこから抜け出そうともがいているところに対面からトラックが来る。驚いた馬が立ち上がった途端に積荷が崩れ、運送屋はその下敷きになりあけなく死んでしまう。冒頭からなんとも残酷な場面である。新しいものが古いものをどんどん葬り去っていく象徴的な場面である。成長期にはプラスの面ばかり強調されがちであるが、波に乗れない弱者が切り捨てられていくのも事実であり、小栗監督は出だしから観客に一撃を食らわす。思い返せば、馬車は僕の記憶にもはっきりと残っている。鳴門市の街中に住んでいたが、当時はまだまだ馬車はよく見かけた。アスファルトの道路にはどこかに必ず馬糞が落ちていた。時代の共有感が自然と映画の中に引きずり込んでくれる。

ある日、信雄が家の窓から対岸を見ていると見知らぬ一艘の船が停泊していた。運搬用ではなく、住居用の「宿船」である。そこには信雄と同年齢らしい男の子が住んでお



り、彼との交流がこの映画のメインテーマである。住所不定だから学校にも行ってないらしい。水道もないから公園からバケツで水を汲んでくる。当然電気もなくランプ生活だ。しかし、その子「きっちゃん」はとても明るい少年だ。極貧の生活だがそんなことを気にしている様子もなく、信雄を船（自宅）に連れてくる。この場面だけでも涙が滲んでくる。小学校の3年生ともなれば、それなりに世間がわかっているし、羞恥心だって芽生えている。にもかかわらず笑いながら信雄を連れてくる。本来ならグレるか、ふさぎ込んでいても不思議ではない。むしろそれが普通だろう。信雄に声をかけられたのがよほど嬉しかったのか、あるいは悟りきって意識的に明るく振舞っていたのか。その健気なさに心を打たれるのだが、やりきれなさの中の清涼剤のようでもある（ラムネを登場させる演出が生きている）。そこには2つ3つ年上のきれいなお姉ちゃんもいた。家のことはすべて彼女がまかなっているという。弟と違って静かで賢く何もかも理解しているようだ。彼女が信雄の汚れた足を洗ってくれた。また、姿は見えないがやさしいお母さんもいるようだ。その後、加賀まりこ演じるお母さんに面会するのだが、自分のお母さんよりもずっと美人である。思春期の始まりかけた信雄の心は相当ざわついたに違いない。このことも自分の記憶と重なるのである。小学校低学年の頃、近くの茶屋（喫茶店ではなく茶の葉を売る店）に、とてもきれいなお姉さんがいた。何かと可愛がってくれたような記憶があるが、ほのかな憧れを抱いたことははっきりと覚えている。

この映画の登場人物は社会の底辺にいる人ばかりだが、悪い人は一切いない（「テレビを見せない」といった意地悪の同級生はいたが）。貧しくてもみんな助け合わなければ、という思いが全編にみなぎっている。信雄の両親はその姉弟を何度か自宅に招待する。ご飯を食べさせ、風呂に入れてやり、とっておきの手品で喜ばせる。いいなあ。高度成長期が始まる頃である。みんな、追い着き追い越せ、と他人を蹴飛ばして躍りになっていたが、完全にその裏の世界を描いている。実はこんな人たちが社会を支えているんだ、と言わんばかりである。印象的な場面がある。新しい洋服を着せてもらったお姉ちゃんは、似合うからくれる、というのを断ってしまう。欲しいのに違いないのだから遠慮なく貰えばいいのに。社会に甘えてしまっただけか、という大人の理性的な感じが身につってしまったのか。信雄のお母さんと風呂に入っている場面では子供のようにはしゃいでいた。会話の内容は、船から用を足す話であった。室内にはトイレがないから、船べりを両手でしっかりつかみ、川に落ちないようにして用を足す、というのである。女の子にとって、こんなことは死ぬほど恥ずかしいことに違いない。そんなことを笑いながら話すということに、日頃の緊張感がいかに彼女の心を締め付けていたのか、いかに心が休まることがなかったのか、と悲愴さが身に沁みる。食堂をやっているから米びつには米がいっぱい入っている。お姉ちゃんはそこに両手を差し込んで「暖か

い」と言う。米は生活の豊かさの代名詞でもあったろう。「こんなにたくさんのお米があったら…」という思いが切実に伝わってくる。このことに関しても思い出がある。僕の家は戦後「紙屋」で生計を立てていたが、ちり紙や紙袋等売っているだけでは生活が成り立つはずがないことを子供心にも十分わかっていた。売上金が入っている引き出しを開けて、多くのお金が入っているのを見ると子供心にも安心したが、ほとんどの場合、少々の小銭が入っているだけで気が滅入ることが多かった。

信雄の父親は満州で終戦を迎えたらしくシベリヤ抑留からの帰還兵であり、死んでしまった馬車運送屋も同じような境遇である。目の前で事故死してしまったことに接し、「戦争で苦労しながらも生きて帰ってきたのに、こんな死に方をするんやったら戦争で死んだほうがましだったんとちゃうか。わいらの生活は全くスカのようだ」とつぶやく。「スカ」という言葉を知っているだろうか。「外れ」という意味の関西弁である。また母子家庭のきっちゃんのお父さんも兵隊だったようだ。ごはんをごちそうになった後、きっちゃんは「歌も歌えるで」と言って歌いだすのだが、なんと「ここはお国を何百里、離れて遠き満州の…」と軍歌を延々と歌い続ける。かつて父親がいつも歌っていたのだろう。意味も分からず正確に歌っているきっちゃんの姿に、童謡も知らないのか、というかわいそうな思いとともに、満州で全滅した兵隊の姿が重なってくる。この映画に登場する人たちは声高に戦争反対を叫びはしない。戦争に突き進んだ日本政府を恨みもしない。ただ毎日在必死で生きているだけだが、ここでも日本が立ち直ってきた隠れた原動力を感じる。僕の父親は大正14年生まれであり、若かったためか終戦近くなって国内の高射砲部隊に召集されたそうである。それほど苦労しなかったようで戦時中のことはあまり聞いたことがない。

信雄ときっちゃんはしだいに仲良くなっていく。周りの大人たちの話から、きっちゃんのお母さんは実は娼婦なのだとわかってくる。信雄は彼女に会ったとき言い訳を聞く。「お父ちゃんが死んでから陸の倉庫で働いていたこともあったんよ」と。何も小学3年生の子供にそんな言い訳をすることもなからう。しかし、彼女はきっちゃんの友達には誠実な態度で接したのだと思う。事実をごまかさずに話したのだと思う。その証拠に、信雄の受け答え態度は先生に対するものとそっくりで、近所のおばさんと話しているのとはまるで様子が違った。自分の母親よりもずっと美人のお母さんと差し向かいで緊張しているのが見え見えだ。同時に「きっちゃんとはずっと友達でいよう」と思ったに違いない。ここから物語は後半の山場に入っていく。信雄のお母さんから50円づつ小遣いを貰い二人は夏祭りに出かける。たくさん夜店が出ており、何を食べようか、とあちこち店を回る。そして最後にりんご飴を注文する。ところが、ところが、である。なんときっちゃんのポケットには穴が開いており、預かった信雄の分もいっしょになくしてしまったのである。二人は地面を這いずり回っ

て探すのだけが見つかるはずがない。笑い飛ばす場面かも知れない。でも絶対にそれはできない。心から同情の思いが湧き出てきた。なぜなら僕自身全く同様の経験があるからである。小学校2年生だった。担任の女先生が病気で入院したのでクラスを代表して数人の友達といっしょに見舞いに行った。今でもあるが鳴門病院である。今なら歩いて行けなくもないが、当時は別の先生が付き添って市営バスで行った。子供運賃は10円だったと思うが往復のバス代だけ親にもらって行った。病院には先生のお母さんが付き添っており、僕らに10円づつ(だったと思う)小遣いをくれた。そして帰りのバスの待合店で切符を買った後、僕だけが、もらった10円でお菓子かアメを買ったのである。今でも印象に残っているが、見送りに来ていた先生のお母さんは「小遣いをもらったことを家の人に言うべきで、買い食いはいけない」というようなことを言った。今考えると、僕はいい子ではなかったとは思ふ。でも、そうせざるを得なかった子供に言うことか、とも思う。さらに最悪の事態がその後起こった。なんとポケットに入れたはずの帰りのバスの切符がないのである。きつちゃんと全く同じである。誰にもそのことが言えず、何もなかったようなふりをして店内の床のあちこちを探し回った。どこにもない。念のため店の外も探すことにした。国鉄の硬券と比べてバスの切符は薄っぺらい。どこかに飛んでしまったのか、とあきらめた時に木の溝ふたの隙間に挟まっているのを見つけた。「ああ、良かった、助かった」と心から思った。今だにこの出来事はしっかりと覚えている。

そして物語は最後の山場になる。金を落としてしまった無念さを払うかのように、きつちゃんは信雄を船に誘う。「秘密の宝物を見せてやる」というので期待して行くのだが、夜なのにお姉ちゃんはいなかった。この宝物と子供らしからぬ遊びが何だったのかはここでは伏せておきたい。何から何まで説明すると映画の楽しみを奪ってしまうかもしれない。おそらく誰も思いつかない陰鬱な遊びである。ところが、きつちゃんを責める気にはなれず悲しさだけが募ってしまう。信雄はその遊びをなじりながらも、その流れで隣のお母さんの部屋を覗いてしまう。そこには背中いっぱい

いに刺青をした男に抱かれているお母さんがいた。そのお母さんの目と信雄の目がぴったり合ってしまう。ここがクライマックスである。本来なら、夜はお姉ちゃんと一緒に船を離れてどこかで時間を潰していたのだろうが…。

翌朝、信雄は窓から向こう岸の宿船を見ていたが、急に移動し始めた。エンジンもないただの箱だから別の船に引っ張られていく。自力で動けない船、ということがこの家族の置かれた状況と重なってくる。焼玉エンジンのポンポンポンという音が妙に懐かしい。昨夜の衝撃が冷めやらぬ中、ぼんやりと眺めているだけの信雄。母親が「きつちゃんにさよならしなくてええの?」と言葉をかけるが、まだぼんやりしているだけだ。しかし、しばらくたって信雄は急にその船を追って駆け出していく。泣きそうな顔で追いかけるのだが、どうしても声がかけれない。そのうち「きつちゃん、きつちゃん」と小声で呼び、次第にその声が大きくなっていく。小さな船に引っ張られているからそれほどスピードは速くない。どこまでも、どこまでも追いかけていく。去っていく人を追いかけていく場面はなんて情緒があるのだろう。自然と涙が頬を伝う。そのうちに声は叫びに変わって、橋の上から「きつちゃん、きつちゃん」と大声で呼ぶ。しかし船からは誰も出てこない。単調なエンジンの音と共に静かに逃げるように船は引っ張られていく。場面はそのまま川面をバックにしたエンドロールになっていく。このラストシーンが最高である。派手な別れの場面ではなく沈黙の別れである。おそらく、きつちゃんの母親は信雄から離れることをすぐ決断したのだろう。社会保障も行き届かない社会の中では、何をしても生きていかなくはない。娼婦であろうが逃げる必要はない。でも、逃げていくしかない。このあたりの事情を賢いお姉ちゃんはしっかりと理解している。信雄の声に伝えたいきつちゃんを、出て行かないようにしっかりと抱きしめているお姉ちゃんの姿がはっきりと浮かんでくる。目にいっぱい涙を溜めて…。この画面を隠したまま想像させる監督の技量が実に心憎い。余韻たっぷり映画は終わる。

タイトルの「泥の河」とはいったいどういう意味なのか。

よろず
伝言板

「同窓生の声」募集

本校も独立行政法人となり、現在、様々な対策を取って教職員一丸となっております。しかし、教職員の知恵だけでは不十分な点もあろうかと存じます。本校発展のために同窓生の皆様のお知恵も拝借することができましたらこれほどありがたいことはありません。『悠久』や本校のホームページ等をご覧になってお気づきの点がありましたら何なりと左記連絡先までご連絡い

ただけましたら幸いです。高い見地からの皆様のご意見をぜひお寄せください。同窓生の皆様のご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】 阿南高専学生課

阿南市見能林町青木265

TEL 0884-23-7132

FAX 0884-22-4232

MAIL dosokai@anan-nct.ac.jp

「川」は自然の清流をすぐイメージするが、「河」はなんとなく人工的な感じがする。また、「流れる」というイメージよりも「淀んでいる」という方がびったりする。街の住人の誰かが「底には2mくらい泥が溜まっている」と言う場面があり、終戦後の泥のような生活を重ね合わせているのではなかろうか。祭りの時にはその河を豪華に飾った船が行き来するが、それは水面だけである。当時の世情も経済発展という派手な時代が始まろうとしていたが、やはりそれは表面的なものに過ぎない、と。河には不気味で巨大な「お化け鯉」も住んでいる。エンドロールのタイトルバック画面は川の水面であるが、メタンガスなのだろうか、異様なガスが川底からブクブクと吹き出し続けている。これらも戦後社会を象徴しているように思える。そんな環境下でもキラリと光る友情があり、貧しいながらも助け合う庶民の暮らしがあった。力及ばず、で終わってしまうが、

それぞれができる範囲内で力いっぱい助け合う生活には本当に心が洗われる。この映画は決してハッピーエンドではない。しかし、「昔はみんなそうだった」という感覚が大き過ぎて、悲しみよりも郷愁感を先に感じてしまう。自分の思い出と何度も重ねてしまった所以である。原作は宮本輝のデビュー作である。ネットで調べると、我々と同じ団塊の世代の作家であり、信雄やきつちゃんとも同世代である。寡作の小栗耕平監督とタッグを組んで、是非「泥の河その後」を作ってもらいたいものである。

蛇足かもしれないが、加賀まりこの妖艶な表情にはドキッとす。一見の価値あり。また、藤田弓子の関西弁は気になった。一応関西弁らしく話してはいるが、単語のアクセントが標準語のままになっていることがあり、その不自然さは関西人であれば瞬時に分かる。丁寧に作れば簡単に修正できる問題でありちょっと残念である。

赤い手帖 (29)

昭和45年度電気 森田虔児

今のサッカー日本代表監督は、森保^{もりやす}一^{はじめ}氏であるが、サッカー界の人達は、彼を「ぼいち（保一）」と呼ぶ。それを耳にすると、日頃Jリーグに関心のない人達は、日本代表監督の姓を「森監督^{もり}」だと勘違いするそうである。この誤解は監督の愛称（ニックネーム）が発端であるが、小生自身の幼い頃の学習結果でも、姓名に類する区切りを間違っで覚えた経験がある。例えば、「清・少納言」・「ドン・キホーテ」などである。結構永い間にわたって、これらを「清少・納言」・「ドンキ・ホーテ」と頭の中で区切って口にしてきた。この程度の誤認識は他人に露見することはないが、小中学生の時に独学で覚えた、例えば「天変地異」や「右顧左眄^{みづみ}」については、他者に指摘されるまで「天地異変」・「左顧右眄」が正統と思い込んでいたのである。ある記事で、高名なエッセイストが、永い間「順風満帆」を「じゅんぷうまんぼ」と（頭の中で）読んでいた、との告白があり、文章のプロでも、小生と同様のかかる間違いに、後半生になってから気付くことが有るものだ、と妙な安心をした。

昨年の11月に、東京に所用があったついでに、池之端の「横山大観記念館」を訪れた。それまでにも、根津神社近辺の不忍通りは何度か歩いたことがあったが、不忍池を見たのは、実は今回が初めてであった。縄文時代、当地は東京湾の入り江に相当する、複数の川の河口であったそうだが、海岸線が後退した現在ではその面影はなかった。また、横山大観記念館の在る位置から、かつて見通せたはずの池面の風景

も、近年の建物群によって遮^{さへぎ}られていた。東京大空襲で焼失した後に再建されたという、数奇屋風の家屋と庭園は、大観自身の意匠であると聞いたが、それらの中でも、当時の細川護立侯爵が贈呈したという庭石が印象的であった。

昨年のクリスマスの少し前には、3歳と1歳の孫ふたりを伴って、同居の家族6人で香港を訪れた。家内への「還暦祝い」の名目ではあったが、日程計画・各種の予約・手配などは、すべて彼女自身が対応して呉れた。孫達のために、日付変更線を超えない条件の旅行を計画したのであるが、更に、出発当日の電車等の行程が厳しくならないよう、羽田空港近くのホテルに前泊した。1歳の孫の方は、飛行機での旅自体も今回が初めてで、いきなりの海外旅行となった。現地では、(ロサンゼルスや東京に比べ) やや小振りの香港ディズニールランドをはじめ、黄大仙やビクトリアパーク等の市内観光を楽しんだ。黄大仙では、「赤松黄仙祠」という扁額が架かった山門に向かって、参拝者を取り囲む配置に十二支の像が並んでいるのが興味深かった。またパークタワーの周辺でも、ビル工事現場を少なからず見かけたが、その足場が、錆や腐食を防ぐ目的で「竹組み」としている点が印象に残った。

アヘン戦争終結から155年を経て、1997年に英国より返還された香港であるが、昭和時代のテレビ番組（クイズや懸賞）では、「香港・マカオの旅」が賞品の定番であり、若者向けに人気のあったグアム・サイパンと同様に、我が国の小父様族には、香港が最も手頃で知名度の高い海外旅行先であったように記憶している。返還から20年以上を経た、今回の現地訪問では、一見、20世紀当時と変わらない市民生活があるような印象を持っていた。然しながら、今年になって「逃亡犯条例」改正案を発端とする一連の騒

動が起きた。行政長官による「改正案」撤回の表明後も、若者を中心とした「抗議デモ」が、いまだ収まりを見ないようである。その結果、8月頃以降の観光客・訪問客が約6割に激減したとの報道もある。「ボックス・アメリカーナ」に対抗した、中国の「一帯一路」戦略の一環で、不本意に特別行政区（大湾区構想）に含まれてしまった、「香港人」の根強い反発が顕在化したようで、小生は、中国のグローバル経済戦略に関する認識を新たにした。一方、日韓関係の悪化で、今や韓国からの訪日客が急減しているらしいが、中国からの訪日客は増えている模様である。その理由のひとつに、かかる香港の大規模デモがあるらしい。従来は香港での購買客となっていたはずの、中国本土の富裕層による日本国内での消費額は、韓国からのインバウンドの消費額を大幅に上回る様相だそうである。

来年の5月に、歌舞伎俳優の「市川團十郎」が復活し、今の「海老蔵」が十三代目として名跡を襲名すると発表された。関連した新聞の解説記事には、十二代目他の写真とともに、江戸期の初代團十郎の錦絵が出ていた。よく見ると、錦絵の背景に「元祖 鎌倉権五郎」という千社札風の文字があった。それが初代の代表的な演目であった風で、「権五郎」が江戸期の庶民にはポピュラーであったものと理解した。後日、鎌倉で長谷寺の観音ミュージアムを見学したついでに、坂ノ下の権五郎神社（御霊神社）に寄って見た。ここを前回訪れたのは、^{およ}凡そ25年前である。かつては銀杏の落葉に敷き詰められた^{せいひつ}静謐な境内の雰囲気感激したものだが、樹齢400年を誇った「夫婦銀杏」は、幹の途中で雄株・雌株とも無残に伐採されていた。一方、境内を横切る江ノ電の軌道付近は、当時見かけなかった観光客で賑わっていた。何でも、極楽寺駅側の隧道を抜けてきた江ノ電の車両を、参道の踏切側から撮ると、「インスタ映え」のする写真となるらしい。観光客の中には外国人らしい姿も交じっていた。また参道付近には、神社の由来書きの看板や七福神の幟が増えて、かつ土産物を商う店まで出来ていた。権五郎神社に限らず、久しぶりに訪れた鎌倉は、観光地として街全体の変化が随所にあった。扇ガ谷の古我邸から銭洗弁天に至るエリアの中ほどには、「鎌倉歴史文化交流館」という建物が2017年にオープンしていた。

2年おきに受診している成人病検診を、今年も夏の初めに気楽に受けたところ、思いもよらず呼吸器系の再検査となった。受診の1か月後に届いた検診結果通知に依れば、肺に結節影が認められるとのことであった。ここ50年余りの間ずっと気になっていた、幼いころ遊んだ環境でのアスベストの影響がいよいよ顕在化したかと、小生は途方もない想像をめぐらした。掛かり付けの別の病院で、時を置かずCT検査を受けたところ、幸いに顕著な「影」は無かったが、呼吸器内科の医師が、さる5月に撮っていた小生の胸部画像を念のため確認して呉れたところ、そちらの画

像では結節影が鮮明に認められ、その「影」が、ドックの時点でも消えずに残っていたものと判明した。実は、老衰（95歳）で昨年亡くなった母の一周忌で、帰省する直前の数日間に高熱が出たことがあったため、小生が5月にこの病院を受診したのであるが、その時の内科医が、胸部レントゲンを撮っておいて呉れたのが役に立った。当時、その内科医が「重症ではないが、法事で遠方に行かれるので、念のため抗生剤を出しましょうか？」と小生に尋ねたとき、薬局に寄るのが面倒で、これを断ったのが不味かった（抗生剤で「影」が早期に消滅したはずだった）と反省している。

ドックの再検査結果に一安心したものの、夏の終わりに孫達と近くの公園に行った後で、右腕に水泡のような半透明のブツブツが出来た。初めのうちは虫刺されかと思ったが、痒みなど無いまま、患部が少しずつ拡散するので、慌てて日曜日に開いている皮膚科に駆け込んだ。評判の良いクリニックだったらしく、もとより予約患者で待合室は満席であったが、加えて夏休みの終盤であり、保護者同伴の児童・生徒の新患も多く、「初診は180分待ち」の古びた張り紙が、当然の如く受付脇の壁に張り出されていた。小生は、正味3時間余り待たされた。診察結果は、ほぼ一生に一度しか罹らないという「^{かか}帯状疱疹」ということで、右腕全体を白い包帯に包まれ、休日にも開いている薬局で、ウィルス除去用の、通常より一桁高額の飲み薬など一週間分を処方してもらった。その一週間後の再診については、今回の3時間待ちに懲りて、患者が減ると推定した、閉院間際の時間枠で予約した。ところが再診当日（9月8日）の朝、クリニックから「台風15号が接近しているので、予約時刻に拘らず、前倒しで来院して呉れ。何時に来ても、すぐ診察する」との電話を貰った。そこで昼過ぎに行くと、本当にすぐ診察して貰えただけでなく、看護師や受付の人からも、丁寧に「前倒し受診」のお礼を言われた。確かに台風15号は、気象庁の警告通り、千葉県をはじめ関東地方全般に甚大な被害をもたらした。

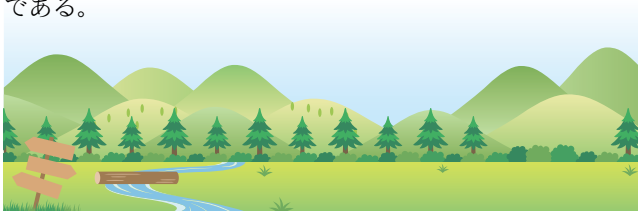
それからしばらくして、夏休みシーズンを避けた10月初旬に家族6人でオアフ島に出掛けた。ふたりの孫は、この頃には、もう4歳と2歳になっており、日付変更線の通過も可能だと判断した訳である。かつて中学生だった息子と3人でハワイに訪れた時から、すでに24年が経過していた。いま新しい家族が増えた小生にとって、今回が「最後のハワイ」とならぬよう、今後も健康には心せねば、と現地では考えた次第である。

ワイキキビーチ前のコンドミニウムで予定の5日間を過ごし、ディナークルーズや市内観光のオプションツアーだけでなく、トロリーバスを活用した買い物・食事やショッピングセンター巡りなどを満喫した。孫との付き合いでは、ワイキキビーチやホテルのプールで、多い日には三度

も泳いだ。38年前に、アメリカ西海岸への新婚旅行の帰路に立ち寄ったホノルルで、家内と2泊したレインボウタワー（ヒルトン・ハワイアン・ビレッジ）近くにも、懐かしく訪れた。ひときわ目立つそのタワーに関して、新婚旅行当時には理解していなかったのであるが、ハワイ島のシンボルは虹だそうである。その虹の発生は、貿易風の恩恵によるもので、当地が「虹の州」と呼ばれる所以である。確かに街中の自動車のナンバープレートにも虹がデザインされていた。カラカウア大通り周辺には、観光地だという理由もあろうが、至るところの照明にガス灯のような炎が明るく輝いており、特に夜間はエキゾチックな雰囲気を出していた。

一方、ホテルのテレビでは、ほぼリアルタイムで日本の放送が視聴できたが、やはり台風情報がずっと気掛かりであった。案の定、台風19号の影響で、成田空港到着便が欠航となることが、帰国予定の10月12日になって判明した。結果として、ホノルルで4日間の延泊となったが、幸いに同じホテルの同じ部屋で過ごせた。多分、日本からの観光客が出国できなかった背景もあり、空き部屋の確保が叶ったものと思う。新聞販売店や郵便局、宅配業者への留め置き延長や、町内会回覧物の先送り依頼を、現地から国際電話で連絡した。たまたま帰国直後の週は、我が家がゴミ収集所の清掃当番になっており、こちらの方は隣家をお願いした。また現役で勤務している家内と息子は、インターネット等で業務先との対応をしていた。国内の、我が家の台風被害状況については、隣の町に住む義弟が、家の周囲をグルリと撮影した画像（大事は無かったが、庭で幾つかの植木鉢が転がっていた）を、メールで転送して呉れた。帰国便の欠航による、宿泊費用等（自己負担）はそれなりに発生したが、開き直れば、2回分相当のハワイ旅行を家族全員で堪能出来た訳で、特にふたりの孫は、ダイヤモンドヘッドへのバス旅行や水族館巡りなどではしゃいでいた。

地球温暖化の弊害が取り上げられて久しいのであるが、里山が失われ、放置された山林や過疎（無人）集落の増大による「住環境の悪化」にともない、線状降水帯等が頻出する低気圧や台風がもたらす雨量に対して、地方も都市部も、保水力のない状況を呈している。地震・津波とは異なる、洪水や山津波の災いが、忘れる暇もなくやって来るようになった。「ノアの箱舟」の必要な時代が、ミレニアム単位で、ひたひたと迫って来ているような気がする昨今である。



平成31年1月22日「4期生ゴルフ大会」

2年ほど前に4期生だけでゴルフ大会をしようということになり、今日5回目の大会を阿南カントリーで行った。松原、中井、半田と私が参加した。スコアは書かないが、半田と私は全くヘタである。しかし同級生とのゴルフはとても楽しい。中井は本来なら80を切れる力をもっているのだが、ヘタな二人にリズムを崩されてしまい、不本意な成績に終わっているようだ。

ゴルフのあと、私と松原は大阪在住で同級の湯浅がもっている別荘に向った。旧海南町役場から30分ほど山に入ったところで、まわりは山ばかり、まるで「ボツンと一軒家」に出てくるような所だった。ただし立派な新築の一軒家で冷暖完備、フロも畳2枚くらいあった。

もともと湯浅は橘町出身で、中学の同級生2組の夫婦が今夜の料理をつくりにわざわざ来てくれていた。酒もたくさんいただき、泊めてもらった。

3月2日「チャリティーバザー」

私の住む地区の婦人会主宰のチャリティーバザーがあった。家にある、不要なものを出してくれと頼まれていた。去年10月に母が亡くなり、これ幸いと押入れにある、母がたまえ込んであった品々をたくさん出してきた。

大半は冠婚葬祭のときにもらった引出物である。箱に入ったままで、贈り主の名もわかるものもある。将来息子が結婚して使えそうなものだけを残しバザー会場へもっていった。

4月8日「丹波篠山の黒豆」

今年の正月に兵庫県三田市に住む同級の井添から黒豆の種をもらったが、「岡本にも渡しといてくれ」と頼まれ預かっていた。井添と岡本は高専に入学して最初に明正寮で同室となり今も親しくしているらしい。そろそろ種播き時になったので岡本に連絡した。

岡本は石井町に住んでおり、私の家から10分余りのキョリであるが、初めてうちに来た。1時間ほど雑談して帰ったが、彼のことをほとんど知らなかったので話が新鮮だった。

令和元年5月8日「散髪」

私の家から50m離れた散髪屋に30年通っていたが、4月に店主が高齢のため店を閉じた。そのため今日、はじめて違う店に行った。違う店といっても20年前に家の隣にできた店で、毎日顔を合わせていた。隣にできたからと言ってそう簡単に店をかえることはできなかった。

今まで行っていた散髪屋は3000円だった。今度の店は2800円になった。坊主頭で仕上りは同じである。なんか30年間損をしていたような気がした。

5月14日「68才の手習い」

ばげ防止には指を動かすのがいいと言われているが、その教えを信じ、今日沖浜にある「ヤマハギター教室」に入校した。他にも指を動かす方法はあると思うのだが、ギターを弾くのは長年の私の夢だった。50年前、日本中の高校、高専、大学を問わず、どこの学園祭もフォークギターを弾く人は花形だった。その姿を見てとても羨ましかったのを思い出す。

どこまでやれるかわからないが、近い将来老人会の演芸大会でギターを弾き「老人会の花形」になりたいと思っている。

6月9日「涙のサヨナラヒット」

セバ交流戦が始まったが、今夜の甲子園は心に残る試合だった。対日本ハム戦で3対3で迎えた9回裏、2アウトランナーなしから高山、北條が出塁、そして代打原口が劇的サヨナラヒットを打った。

原口は開幕前に大腸ガンを患い、そして病を克服し1週間前に1軍復帰したばかりだった。甲子園の観客も、矢野監督も泣いていた。もちろん私もテレビの前で涙をこらえることができなかった。

7月8日「悠久同窓会理事会」

ホテルクレメントで、約40人が集まり理事会が行われた。一番大きな議題は兼松会長が引退し3代目の会長に横手君(14期)が、全会一致で推されたことだ。正式には8月12日の同窓会総会で承認されることになる。

兼松君は10年前、初代上田会長から引き継がれたが、近々阿南商工会議所会頭になられるようで、それが一番の理由のようだ。3代目となる横手君は阿南高専落研の後輩で、人柄も人望も抜群である。微力ながら彼を後押ししたいと思っている。

7月25日「同期の桜」

もう言い始めて何年にもなるが、4期生の同窓会のとき、橋本哲と河野と私の話で「今度三谷先生と飲み会をしよう」と毎回言っていた。そして今夜、やっとその話の実現した。そんなに大それた話ではないのだが、先生とは長いこと合わないし、そんな気持ちになっていたのだと思う。

はじめは我々4期生だけでということだったが、3人だけではちょっとさみしいので同じ時期に落研に在籍した、5期の天野、6期の米田、7期の秦野、安平も呼ぼうということになった。

なぜ4期生だけであるはずだった、というのは4期生が昭和41年4月に入学したのと、三谷先生が教員として始めて阿南高専に来たのが同じだったからだ。我々も70才近くなり、先生と生徒という関係よりも「高専の同期」という感覚が強くなっているからかもしれない。

9月20日「返り討ちに合う」

同級で埼玉在住の泉が墓参りに帰ってきた。本来なら盆に帰るところなのだが、今夏も猛暑で、70才近くなると体にこたえるようで、秋の彼岸となったようだ。本当の目的は私とのゴルフ対決である。彼はゴルフで勝てる相手は私だけと確信しており「二人だけで回らないか」と指定してきた。

1日目は昨日、四国カントリーに行った。私としてはホームでもあり、負けるはずはないと思っていたが、119対118で負けてしまった。遠いところから帰ってきたのだから今日はサービスしてやったと思うことにした。そして今日は阿南のコートバールCCへ行ったが109対108でまた負けてしまった。昨夜「あすは返り討ちにしてやる」と意気込んだのが裏目に出たようだ。

泉とは高専3年生のとき落研に所属し、二人で「高枝・専枝」の芸名で漫才コンビを組んだ。親友でもあり、ライバルでもあったが以来50年以上にわたって現在も低レベルの競いあいは続いている。

9月30日「奇跡はおこる」

今年の阪神タイガースは喜び、悲しみ、怒りが交互にやってくるシーズンだった。ほとんどあきらめていたのに、最後の9試合になって、奇跡がおこった。なんと8勝1敗という信じられないように勝ち進み、今夜3位広島をひきずり降し、CS進出を決めた。この10日余り、ひたすら祈りつづけた。

(後記 阪神はセカンドステージで横浜を破った。もしかしたらファイナルでも巨人に勝つのではと願ったが、1勝4敗の完敗だった。そんなにおこるものではないから「奇跡」というのだろう。)

10月22日「婚姻届」

平成は31年4月30日でもって終了し、5月1日から令和元年になった。そして今日、新天皇が即位を宣言する「即位礼正殿の儀」が皇居で執り行われた。日本人としてとても厳かな気持ちになった。

それに合わせたかのように、と言うかまさしく合わせたのが長男と嫁さんになる人が徳島市役所に婚姻届を出しに行った。平成元年生まれの息子が令和元年に婚姻届を出すとはとてもキリがいい。また式と披露宴は来年2月23日、つまり天皇誕生日に決っている。息子も、割と「みいはあ」である。

身長1m66cm、体重90kgの新郎と、身長1m64cmの新婦が披露宴会場を並んで歩く姿を想像するだけで楽しくなる。

11月4日「爺バカ」

長女が1才のころ津乃峰神社に来たことがあった。逆算すれば37年前のことだ。それ以来の津乃峰となった。阿南市に嫁いだ次女の長女と長男が7才と5才になり、七五三参りに招待された。以前にも書いたが、次女の婿は阿南高専の41期生、その父親は11期生ということで、

気兼ねなくおつき合いしてもらっている。

11月にしては少し寒かったが、晴天で、他にも5、6組七五三参りの家族が来ていた。よその子にも目が行ってしまうものだ。親バカならぬ爺バカというか「やっぱりうちの孫が一番かわいく、一番りしい」と思ってしまった。

12月8日「日記卒業」

20数年前から私の日記を投稿してきましたが、平成から令和に元号もかわり、日記投稿を卒業するのにちょうど

いい時期かなと思いはじめました。思いおこせば7人家族だった我家も、両親が亡くなり、3人の子供も嫁いだり、嫁をもらったりで、とうとう私と嫁の2人だけになってしまいました。典型的な家庭の流れです。

日記を一巡し、ここで一旦日記の投稿を終了し、出来れば次の課題に向って再出発したいと思っています。長い間拙く、またプライバシーを完全に無視し、悠久会員の皆様に御迷惑をかけてきた「私の日記」を読んでいただき、本当にありがとうございました。

悠久第52号の 原稿募集に寄せて

昭和59年度機械 中川博之

平成30年11月に開催された『悠久同窓会創立50周年記念式典・祝賀会』に参加しました。そして、芸名の『桂七福』を名乗り、祝賀会の司会を担当させていただきました。約20歳年上の先輩に挨拶し、25歳年下の後輩から話しかけられる。大変に有意義で刺激的な時間を過ごしながら、縁と繋がりを深く感じられる祝賀会でした。

そんな中、初めて言葉を交わした先輩から「君（私、桂七福）の事は噂では聞いていたし、FacebookやTwitterでも見た事あるよ。君みたいなOBが悠久の会誌に記事を書いて欲しいなあ。まったくの“畑違い”へ飛び込んだ人の様子や近況は興味あるからね。OBや後輩も気になっている者も多いと思うよ。自分の宣伝も兼ねて原稿を送ってみたいんじゃない」と勧められました。確かに、そういう発信はしてきませんでした。会誌は読むばかりです。

昭和55年度。自動車の技術進歩がすごかった時代。ツインカム、V6、ターボ、水平対向、ロータリー…。言葉を思い出せばきりがありません。そんな時に“車関係の仕事に進みたい”という気持ちで私は入学しました。

そして、寮。最初の部屋での、同室の先輩に声をかけられて『落語研究部』に入部。最初は、入部するつもりはありませんでした。先輩が「新入部員の勧誘のノルマがある。すぐに辞めていいから、見学だけ来て」という言葉を信じて、ついて行ってしまったのが人生の大きな分岐点です。落語を知らなかった私にとって、先輩方が笑いながら、楽しそうに練習する様子が魅力的に映り、その後の批評と反省の時間での険しい顔で、ギャグやシャレの間を考えたり、繰り返し言い方を変えて練習する姿のギャップ。“バカバカしい事を真剣に取り組む姿”は驚きでした。つまりは「何じゃ、この集まりは？」です。これをきっかけに落語に夢中になり、顧問の先生に大きな迷惑をかけながら、とうとう落語家へと進みました。

こういう経緯は高座や講演でよく話します。周囲の方々からは「高専から落語家？なぜ？」との興味を持たれることが多いからです。「高専だったら理系でしょ？落語は文系なのに…。全然違う道へ進んだんですね」とも言われますが、私自身も師匠の桂福団治に入門して、師匠と話す中で気づいたことがあります。「落語は大きな機械。言葉という部品を組み合わせて、客に笑いを作るために動かす。唸家は設計・操縦・整備・改良・開発の全部を担当するエンジニアみたいなもんや」と。機械や技術が発展する中で、400年前に作られた落語はアナログ中のアナログです。けど、そんな古い時代に基礎ができた物を、現代の人が見聞きしても楽しんでもらえる、心に何かを感じてもらえるとうことは“人々の気持ちってそんなに変わってないんじゃないかな”と思います。

私みたいな生き方をしている者だからこそ阿南高専の同窓生の皆様にむけて発信できる事や発信するべき事があるのかも知れません。1980（昭和55）年に入学し、1985（昭和60）年に機械工学科を卒業。そこからいろいろな事情も重なりましたが、1991（平成3）年に『桂七福』として落語家のスタート。そして、令和2年には、落語家として30年になります。みなさんとはちょっと違った活動を続ける中で『けったいな同窓生』としての近況報告をお伝えできれば、少しは母校への恩返しにはなるかなと思ったりもしています。みなさんに「同窓生に落語家がおるんや」と、話題にしてもらえるように頑張らないといけないなとも感じながら、今後も積極的に近況報告の原稿を送りたいです。

あらためて、よろしく願いいたします。みなさまのお近くの若者が阿南高専に進学されましたら、落語研究部には入部していただきたいのですが、「絶対に落語家にはなってはいけない！」と厳しくご指導くださいませ…。

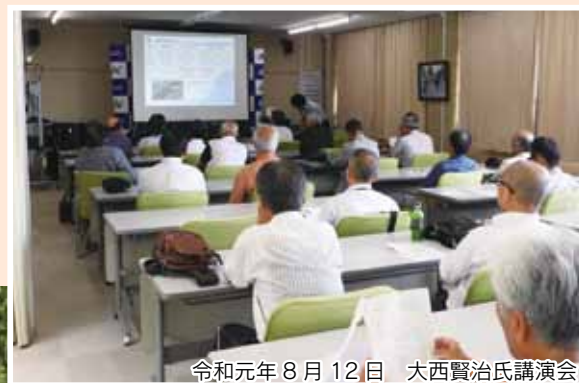
最後に宣伝。

落語や講演のご依頼やご紹介もお待ちしております（笑）。



令和元年 悠久同窓会総会

令和元年 8月12日



令和元年 8月12日 大西賢治氏講演会



今回の悠久同窓会総会に出席された方々です。



講演会の様子



講演会后皆さんと親睦を深めました

現役クラブだより

…体育部…

弓道部

弓道部主顧問の安田武司です、どうぞよろしくお願いたします。弓道部は今年度 11 名の新入部員を迎え、昨年度夏から今年度夏までは部長 3C 上原さん、今年度夏からは部長 2E 濱田さんを中心に、和気あいあいと練習しています。この 1 年間は、特に高専大会関係で好成績を収めることができましたのでご報告いたします。

令和元年 7 月 6 日、7 日に開催された第 6 回全国高専弓道大会中四国予選では、他校を大きく上回る的中を記録し、女子団体の部および男子団体の部で優勝、そして、個人の部においても女子は優勝から第 3 位に、男子は優勝および準優勝に輝くなど、最高の結果を残して本戦への出場権を得ました。なお、全国高専弓道大会中四国予選は、今年度は本校主管のもと鳴門・大塚スポーツパーク弓道場において開催され、部長 2E 濱田さんの統率により多くの部員が大会運営や審判に活躍しました。

これに続き令和元年 8 月 28 日、29 日に鈴鹿市にて開催された第 6 回全国高専弓道大会では、女子団体の部で第 3 位、男子個人の部で優勝と見事な成績を収めました。

最後に、本文に書ききれなかった成績も含め、昨年のご報告以降、令和 2 年 1 月現在までの弓道部の活動状況をお知らせします。今後とも部一丸となって射技と的中の向上に励みます。

顧問 勝藤（一般）、坪井（一般）、西野（機械）、吉田（化学）、安田（機械）
 部員 5 年生 7 名、4 年生 6 名、3 年生 15 名、2 年生 6 名、1 年生 10 名
 部長 濱田直希（2E）
 練習時間 月～金の放課後（16 時 30 分～18 時）

主な成績

◆第 6 回中四国高等専門学校春季弓道大会

（平成 31 年 3 月 7 日、8 日、三瓶青少年交流の家 文武伝承館弓道場）

女子団体 優勝（上原、太田、谷）
 女子個人 準優勝 上原明日香
 男子団体 準優勝（山口（凱）、山口（堅）、大原、江本、岩佐）
 男子個人 優勝 山口堅也、第 3 位 岩佐瑞樹

◆第 16 回春季高校弓道大会

（平成 31 年 4 月 27 日、大塚スポーツパーク弓道場）

男子団体 準優勝（江本、山口（堅）、大原、金山、岩佐）

◆第 6 回全国高等専門学校弓道大会中四国予選

（令和元年 7 月 6 日、7 日、大塚スポーツパーク弓道場）

女子団体 優勝（上原、榊、谷）
 女子個人 優勝 谷 綾乃
 準優勝 上原明日香
 第 3 位 太田朱音

男子団体 優勝（忠津、山口（堅）、大原、金山、新谷）
 男子個人 優勝 山口堅也、準優勝 忠津椋大

◆第 6 回全国高等専門学校弓道大会

（本戦、令和元年 8 月 28 日、29 日、鈴鹿市武道館弓道場）

女子団体 第 3 位（上原、榊、太田）

男子個人 優勝 山口堅也

（弓道部顧問 安田武司）



テニス部

テニス部は現在総部員数 41 名で、1 年生 7 名が新たに部員として加わりました。機械コース 大北裕司先生が陸上部に異動され、一般教養 中島 一先生、情報コース 太田健吾先生が新たにテニス部顧問になりました。外部コーチ シオンテニスクラブ河野一郎・阿紀子両氏との連携は 9 年目となり、2020 年で早くも 10 周年になり、テニス部の躍進には欠かせない連携となっています。さて、春の県高校総体団体においては、ベスト 4 入りは今年も叶いませんでしたが、秋季高校新人大会（高校選抜県予選）の男子団体では城北高校との順位決定戦の接戦を制し阿南高専初の団体準優勝（2 位）を獲得し、高校選抜四国大会に初出場することができました。また、四国地区高専大会の団体戦では香川高専高松キャンパスと接戦になり、ポイント 1-2 で惜しくも 6 連覇を逃し、悔し涙を流しました。一方、四国地区高専大会で単複制覇を継続する女子は、全国高専大会では四国高専初の女子シングルスと女子ダブルスで優勝するという史上初の単複制覇という偉業を達成しました。令和 2 年は、総体団体ベスト 4 へ復活、四国高専大会では団体優勝を奪還し、全国高専大会へ出場を目標に、高低学年ともに日々練習に励んでいます。テニス部 OB、OG および関係保護者におかれましては、来年度も 6 月の高校総体団体（大神子）をはじめ、7 月の四国高専大会（高知：春野総合運動公園）、8 月の全国高専大会（大阪：江坂テニスセンター）に来場して頂き、応援をお願いできればと思います。

練習の近況を申し上げますと、10 月から部活動の安全管理体制が強化されております。週 2 日の部活動休みの確保、

平日の活動時間帯が16:15～18:45までと、従来と比較するとかなり部活動の時間が短縮されています。

平成30年12月～令和元年12月までの活動状況をお知らせします。

主顧問 原野（機械）

顧問・コーチ

高岸（技術部）、長田（建設）、中島（一般）、
錦織（一般）、太田（情報）、小林（電気）

部員 5年生10名、4年生9名、3年生5名、
2年生10名、1年生7名

部長 男子 今川雄斗（4Z）

低学年キャプテン 野口真斗（2M）

女子 森吉瑛里子（4Z）

低学年キャプテン 稗田華子（2M）

練習時間 月～金の放課後（16時15分～18時45分）
土 （9時～12時）

平成30年12月～令和元年12月までの主な試合成績は次のとおりです。

◆第54回全国高等専門学校体育大会

〈第42回全国高専テニス選手権大会〉(山口宇部市中央公園)

女子シングルス 優勝 森吉瑛里子（4Z）〈初〉

準優勝（瀧根風香（5M）〈初〉

〈1・2位独占も初〉

女子ダブルス 優勝（瀧根風香（5M）〈3回目〉・

森吉瑛里子（4Z）〈2回目〉

◆第56回 四国地区高等専門学校体育大会

男子団体 準優勝

（今川（4Z）・佐藤（5M）・柏木（5M）・川原（3E）・
松田（3Z）・福德（4Z）・岡田（2M）・鹿島（1-1）・
近藤（4Z）・齋藤（2E）

男子シングルス 優勝 今川雄斗（4Z）〈3連覇〉

男子ダブルス 優勝 今川雄斗（4Z）・佐藤良祐（5M）

女子シングルス 優勝 瀧根風香（5M）〈4回目〉

準優勝 森吉瑛里子（3Z）

女子ダブルス 優勝 瀧根風香（5M）〈5連覇〉・

森吉瑛里子（3Z）〈4連覇〉

準優勝 稗田華子（2M）・田中陽菜子（2Z）

◆令和元年度高校新人大会（高校選抜徳島県予選）

男子団体 準優勝

（野口（2M）・岡田（ ）・棚橋（ ）・矢野（2E）・
齋藤（2E）・栗原（2I）・鹿島（1-1）・
吉川（1-3）・美馬（1-4）〈初〉

◆2019都市対抗県代表選考会 女子単複制覇〈初〉

女子シングルス 優勝 瀧根風香（5M）

第3位 森吉瑛里子（4Z）

女子ダブルス 優勝 瀧根風香（5M）・森吉瑛里子（4Z）

◆2019全日本テニス選手権徳島県予選

女子シングルス 準優勝 瀧根風香（5M）

第3位 森吉瑛里子（4Z）

◆第63回徳島県テニス選手権大会

一般女子ダブルス 優勝

瀧根風香（5M）・岡久志津（日亜化学）

◆表彰（平成30年度戦績）阿南市テニス協会・阿南市体育協議会・四国高専体育協議会等からも表彰

優秀団体賞〈2回目〉

今川雄斗・藤本優輔・芝井尚輝・溝渕貴大・
佐藤良祐・吹上優心（全国高専大会2連覇）

優秀選手賞 森吉瑛里子・瀧根風香

（全国高専大会 女子シングルス第3位、
女子ダブルス第3位）

優秀選手賞 今川雄斗（全国高専大会 男子シングルス第3位）

優秀指導者賞 高岸時夫（全国高専大会団体2連覇監督）

（テニス部顧問 原野智哉）



第54回 全国高等専門学校体育大会
（宇部マテフレッセラテニスコート）
女子単複制覇記念 令和元年8月23日

陸上競技部

陸上競技部の現況について今年もご報告します。2019年（平成31 & 令和元年）の陸上競技部は、高学年（4・5年生）主将の野口佑大（5C）君と低学年（1～3年生）主将の四宮昌幸（3E）君を筆頭に、4月に新入部員8名（一年生男子7名、女子1名）を加え、選手32名（うち女子選手5名）、女子マネージャー2名の部員総数34名で新たにスタートしました。顧問教員は、藤居岳人（一般教養：哲学）先生が辞められ、中学から大学生時代に中・長距離選手であった大北裕司（機械コース）先生が新たに加わりました。谷中俊裕（一般教養：英語）先生、松尾俊寛（一般教養：物理）先生、伊丹伸（機械コース）の3名は継続で、4名体制を維持しています。昨年度より外部コーチに就任している陸上競技部OBの麻植一輝氏には継続指導してもらっています。県外試合引率も率先して行ってくれるなど、部員達からの信頼も厚いです。

さて、2019年の陸上競技部の活動状況ですが、OB&OGの皆さん、今年も好結果を多数お届けします。まずは、第1の目標に掲げていた沖縄インターハイに2名が出場（男子三段跳と男子砲丸投）しました。次に高専大会関係について報告します。第54回全国高専体育大会陸上競技では、女子総合2位、男子総合6位、女子800mで優勝、男子砲丸投で2位&3位のダブルメダル獲得、男子三段跳と女子3000mと女子走幅跳で2位、女子100mと女子100mHで3位と全部で8個の個人メダルを獲得しました。その予選会となった第56回四国地区高専体育大会陸上競技では、総合

優勝（阿南高専初の4連覇達成）および男女合わせて個人種目13種目での優勝を達成しました。最後に、高校大会関係について報告します。第59回徳島県高校総体陸上競技では、男子フィールド部門総合優勝（阿南高専初）と男子棒高跳優勝、第49回徳島県高校新人陸上競技大会では、男子フィールド部門総合2位と男子走高跳、女子800m、女子1500mで優勝しました。以上のように、今年掲げていた目標のほとんどを達することができました。

これらの活躍を象徴するかのよう、2019年徳島県一般および高校陸上競技ランキングに多数の部員が名を連ねました。部員15名がのべ25種目にランクインし、そのうち11種目でランキング3位以内（5種目で1位）になっています。詳細につきましては、徳島陸上競技協会ホームページ <http://www.jaaftokushima.com/> に掲載されていますので、ぜひご覧ください。

2020年（令和2年）の目標としては、2年連続のインターハイ（静岡県開催）出場、3年ぶりの国体（鹿児島県開催）への出場、四国地区高専体育大会陸上競技の総合5連覇達成、全国高専体育大会陸上競技の複数の個人種目でのメダル獲得などを目指しています。この好成绩がいつまで継続できるのかわかりませんが、できるだけ頑張りたいと思っています。OB & OGの皆さん、これからも阿南高専陸上競技部への御支援、御指導ならびに応援よろしくお願ひいたします。

以下に2019年に出場した各大会での上位入賞者の種目&順位&記録を列記しておきます。

《一年間の主な戦績 [2019年（平成31年&令和元年）1月から12月まで]》

◆第65回徳島駅伝 平成31年1月4日～6日

（南方 [勝浦・那賀]、北方、西方コース）

勝浦郡代表選手 久保田直樹 (2ES)

・第3区 (9.7km) 第6位 32' 00"

・第31区 (12.2km) 第10位 40' 01"

勝浦郡代表選手 森内拓磨 (2M)

・第1区 (7.1km) 第14位 24' 43"

・第39区 (7.3km) 第15位 27' 15"

名東郡代表選手 栗原 辰光 (1-3)

・第1区 (7.1km) 第16位 27' 37"

・第36区 (6.6km) 第16位 25' 35"

◆平成30年度 第1回徳島県強化投てき記録会

平成31年2月16日（ポカリスエットスタジアム）

男砲丸投 (6.000kg)

第2位 坂野翔哉 (1-3) 13m00 (自己新)

◆平成30年度 第3回徳島県陸上競技強化記録会

平成31年3月3日（ポカリスエットスタジアム）

男棒高跳 第1位 谷 知篤 (2C) 3m90

◆第41回徳島陸上競技カーニバル

平成31年4月6日～7日（ポカリスエットスタジアム）

男棒高跳 第3位 谷 知篤 (3C) 4m00

女800m 第1位 黒田 凜 (1-2) 2' 25" 00

(阿南高専新)

女走幅跳 第3位 新居鈴菜 (4C) 5m35

(阿南高専新 自己新)

◆2019 第1回徳島県中・長距離記録会

平成31年4月13日（ポカリスエットスタジアム）

女800m A組 第1位 黒田 凜 (1-2) 2' 25" 32

◆第90回徳島県陸上競技選手権大会

令和元年5月3日～4日（ポカリスエットスタジアム）

男走高跳 第3位 岩佐隼東 (2C) 1m75 (自己タイ)

男棒高跳 第2位 谷 知篤 (3C) 4m20

(阿南高専新 自己新)

男走幅跳 第3位 大前 歩 (3E) 6m62

男三段跳 第3位 大前 歩 (3E) 14m06 (自己新)

女100mH 第1位 新居鈴菜 (4C) 15" 35

◆令和元年度第1回徳島県陸上競技強化記録会

令和元年5月12日（ポカリスエットスタジアム）

男400m 第3位 伊丹 航 (5E) 52" 85

男800m 第2位 野口佑大 (5C) 2' 02" 54

男走高跳 第1位 岩佐隼東 (2C) 1m75 (自己タイ)

男棒高跳 第1位 谷 知篤 (3C) 4m20 (自己タイ)

男走幅跳 第2位 谷 亮磨 (5C) 6m59

男三段跳 第1位 大前 歩 (3E) 14m21 (自己新)

男砲丸投 (6.000kg)

第3位 坂野翔哉 (2C) 13m14 (自己新)

女200m 第1位 藤井佑衣 (4Z) 28" 19

女400m 第1位 黒田 凜 (1-2) 1' 03" 93

(阿南高専新)

女800m 第1位 黒田 凜 (1-2) 2' 21" 11

(阿南高専新)

女100mH 第1位 新居鈴菜 (4C) 15" 68

◆第73回中国四国学生陸上競技対校選手権大会

令和元年5月17日～19日（シティライトスタジアム）

男三段跳 第6位 谷 亮磨 (5C) 14m09

女走幅跳 第5位 新居鈴菜 (4C) 5m41

◆2019 第2回徳島県中・長距離記録会

令和元年5月25日（ポカリスエットスタジアム）

男1500m A組 第2位 野口佑大 (5C) 4' 10" 89

(自己新)

女3000m A組 第2位 黒田 凜 (1-2) 10' 39" 26

(阿南高専新)

◆第59回徳島県高等学校総合体育大会陸上競技

令和元年6月1日～3日（ポカリスエットスタジアム）

男子総合 第4位 得点：64点

男子フィールド 第1位 得点：59点 (初優勝)

男110mH 第5位 吉本磨生 (2I) 16" 39 (自己新)

男走高跳 第2位 岩佐隼東 (2C) 1m75 (自己タイ)

第3位 大前雄三 (1-2) 1m70 (自己新)

男棒高跳 第1位 谷 知篤 (3C) 4m10 (3連覇)

第4位 高橋愛一郎 (2M) 2m60 (自己新)

男走幅跳 第3位 大前 歩 (3E) 6m60

男三段跳 第2位 大前 歩 (3E) 13m51

男砲丸投 (6.000kg)

第2位 坂野翔哉 (2C) 13m10

男ハンマー投 (6.000kg)

第4位 坂野翔哉 (2C) 21m78 (自己新)

男やり投 第5位 坂野翔哉 (2C) 46m47 (自己新)

女 800m 第2位 黒田 凜 (1-2) 2' 20" 77
 女円盤投 (1.000kg) 第6位 森希美香 (2M) 21m42

◆第72回四国高等学校陸上競技対校選手権大会

令和元年6月15日～17日(ポカリスエットスタジアム)
 男三段跳 第6位 大前 歩 (3E) 14m35 (自己新)
 男砲丸投 (6.000kg) 第6位 坂野翔哉 (2C) 13m59
 (阿南高専新 自己新)

◆第56回四国地区高等専門学校体育大会陸上競技

令和元年7月13日～14日(西条市ひうち陸上競技場)
 総合 第1位 (4連覇) 得点: 134.5点
 (歴代過去最高点)
 男 100m 第1位 原 浩史 (3C) 11" 48
 男 200m 第1位 伊丹 航 (5E) 23" 18
 (2連覇 自己新)
 男 400m 第2位 四宮昌幸 (3E) 23" 38 (自己新)
 第1位 伊丹 航 (4E) 51" 25
 (2連覇 自己新)
 男 800m 第2位 野口佑大 (5C) 2' 00" 69
 第3位 森内拓磨 (3M) 2' 01" 71 (自己新)
 男 1500m 第3位 野口佑大 (5C) 4' 15" 41
 男 5000m 第3位 山崎光流 (1-2) 17' 02" 27
 (自己新)
 男 110mH 第1位 吉本磨生 (2I) 16" 92
 男 4×100mR 第1位 谷 (5C)、伊丹 (5E)、
 原 (3C)、四宮 (3E) 44" 08
 男 4×400mR 第1位 大前 (3E)、野口 (5C)、森内 (3M)、
 伊丹 (5E) 3' 29" 68
 男走高跳 第3位 岩佐隼東 (2C) 1m80
 男走幅跳 第1位 谷 亮磨 (5C) 6m66 (自己新)
 男三段跳 第1位 谷 亮磨 (5C) 13m85 (4連覇)
 第2位 大前 歩 (3E) 12m25
 男砲丸投 (6.000kg) 第1位 坂野翔哉 (2C) 13m55
 (大会新 2連覇)
 第2位 梶野晃生 (5E) 12m43
 (大会タイ)
 男円盤投 (1.750kg) 第1位 坂野翔哉 (2C) 31m18 (2連覇)
 男やり投 (0.800kg) 第2位 坂野翔哉 (2C) 43m19
 女 100m 第1位 藤井佑衣 (4Z) 13" 41 (3連覇)
 第2位 新居鈴菜 (4C) 13" 59 (自己新)



第56回四国地区高等専門学校体育大会陸上競技
 令和元年7月13日～14日(西条市ひうち陸上競技場)
 総合優勝 [4連覇]

女 800m 第1位 黒田 凜 (1-2) 2' 23" 85
 女走幅跳 第1位 新居鈴菜 (4C) 5m24
 第2位 藤井佑衣 (4Z) 4m84
 女砲丸投 第2位 新居鈴菜 (4C) 8m36

◆2019第3回徳島県中・長距離記録会

令和元年7月20日(ポカリスエットスタジアム)
 女 1500m A組 第1位 黒田 凜 (1-2) 4' 58" 48
 (阿南高専新)

◆令和元年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会(沖縄インターハイ)

令和元年8月4日～8月8日(タピック県総ひやごんスタジアム)
 男三段跳 予選 大前 歩 (3E) 13m47
 男砲丸投 (6.000kg) 予選 坂野翔哉 (2C) 13m24

◆第74回国民体育大会徳島県選手最終選考会

令和元年8月11日(ポカリスエットスタジアム)
 男少年共通走高跳 第1位 岩佐隼東 (2C) 1m80
 男少年A棒高跳 第1位 谷 知篤 (3C) 4m40
 (阿南高専新 自己新)
 男成年三段跳 第1位 谷 亮磨 (5C) 14m18
 女少年 800m 第1位 黒田 凜 (1-2) 2' 25" 45

◆第54回全国高等専門学校体育大会陸上競技

令和元年8月17日～18日(エディオンスタジアム広島)
 男子総合 第6位 得点: 22点
 男走幅跳 第7位 谷 亮磨 (5C) 6m59
 男三段跳 第2位 谷 亮磨 (5C) 14m56
 (阿南高専新 自己新)
 男砲丸投 (6.000kg) 第2位 坂野翔哉 (2C) 13m98
 (阿南高専新 自己新)
 第3位 梶野晃生 (5E) 12m78
 女子総合 第2位 得点: 39点
 女 100m 第3位 藤井佑衣 (4Z) 13" 07
 女 200m 第4位 藤井佑衣 (4Z) 27" 27
 女 800m 第1位 黒田 凜 (1-2) 2' 23" 40
 女 3000m 第2位 黒田 凜 (1-2) 10' 51" 76
 女 100mH 第3位 新居鈴菜 (4C) 15" 40
 女走幅跳 第2位 新居鈴菜 (4C) 5m15

◆第67回四国陸上競技選手権大会

令和元年8月24日～25日(Pikaraスタジアム)
 男三段跳 第5位 谷 亮磨 (5C) 14m35
 女 800m 予選 黒田 凜 (1-2) 2' 18" 10
 (阿南高専新 自己新)

◆第60回鳴門市陸上競技選手選大会

令和元年9月8日(ポカリスエットスタジアム)
 男砲丸投 (6.000kg) 第2位 坂野翔哉 (2C) 13m93

◆第49回徳島県高等学校新人陸上競技大会

令和元年9月21日(ポカリスエットスタジアム)
 男子フィールド 第2位 得点: 38点
 男走高跳 第1位 岩佐隼東 (2C) 1m82
 第2位 大前雄三 (1-2) 1m79 (自己新)
 第4位 森 麗央 (1-2) 1m70 (自己新)

男砲丸投 (6.000kg)	第2位 坂野翔哉 (2C) 14m01 (阿南高専新 自己新)
男円盤投 (1.750kg)	第4位 坂野翔哉 (2C) 30m42
男やり投	第3位 坂野翔哉 (2C) 44m55
女800m	第1位 黒田 凜 (1-2) 2'21"19
女1500m	第1位 黒田 凜 (1-2) 4'49"99 (阿南高専新 自己新)

◆2019 第4回徳島県中・長距離記録会

令和元年9月29日 (ポカリスエットスタジアム)
女1500m A組 第2位 黒田 凜 (1-2) 4'51"10

◆第21回四国高等学校新人陸上競技選手権大会

令和元年10月12日～13日
(高知県立春野総合運動公園陸上競技場)
男走高跳 第7位 岩佐隼東 (2C) 1m81
第8位 大前雄三 (1-2) 1m81 (自己新)

男砲丸投 (6.000kg)	第3位 坂野翔哉 (2C) 13m61
女800m	第8位 黒田 凜 (1-2) 2'26"74
女1500m	第7位 黒田 凜 (1-2) 4'52"49
◆第42回中国四国学生陸上競技選手権大会	
令和元年10月18日～20日 (ポカリスエットスタジアム)	
男三段跳	第4位 谷 亮磨 (5C) 14m49
◆第8回徳島陸上競技秋季カーニバル	
令和元年11月2日 (ポカリスエットスタジアム)	
男走高跳	第1位 大前雄三 (1-2) 1m80
	第2位 岩佐隼東 (2C) 1m80
男三段跳	第3位 谷 亮磨 (5C) 14m00
男砲丸投 (6.000kg)	第3位 坂野翔哉 (2C) 13m13
女400mH	第3位 黒田 凜 (1-2) 1'09"69 (阿南高専新) (陸上競技部顧問 伊丹 伸)

水 泳 部

今年度は主力部員2名での活動となり、リレーに出場できませんでしたが、それぞれ個人競技で活躍しました。4年連続で全国国公立大学選手権に出場、また日本学生選手権にも出場できました。令和元年度の主な活動をお知らせします。
主顧問：松本高志 副顧問：笹田修二

◆2019 年度徳島県 SC 春季室内水泳競技大会兼 JO 予選会
4月14日 短水路

100m バタフライ	第1位 奥田真也 (4M) 58.09
200m 背泳ぎ	第1位 奥田真也 (4M) 2:06.65
50m 自由形	第2位 松本直大 (1-4) 25.89
200m 背泳ぎ	第3位 松本直大 (1-4) 2:10.02

◆四国スイミングクラブ対抗水泳競技大会

(くろしおアリーナ) 5月11日～12日 短水路	
100m 背泳ぎ	OPEN 奥田真也 (4M) 57.67 (15～18才)
100m 背泳ぎ	第8位 松本直大 (1-4) 1:01.80 (15～18才)
200m 背泳ぎ	第6位 松本直大 (1-4) 2:12.11

◆2019 年度徳島県 SC スプリント室内水泳競技大会兼夏季 JO 予選会 5月26日 短水路

50m バタフライ	第1位 奥田真也 (4M) 26.13
100m 背泳ぎ	第1位 奥田真也 (4M) 58.51
50m 自由形	第2位 松本直大 (1-4) 25.80
50m 背泳ぎ	第2位 松本直大 (1-4) 28.60

◆第59回徳島県高等学校総合体育大会水泳競技 6月2日

100m 背泳ぎ	第3位 松本直大 (1-4) 1:04.00
200m 背泳ぎ	第3位 松本直大 (1-4) 2:21.35

◆第54回中国四国学生選手権 (香川県立総合水泳プール)
6月8日～9日

100m 背泳ぎ	第2位 奥田真也 (4M) 1:00.24
200m バタフライ	第2位 奥田真也 (4M) 2:09.35

◆第79回徳島県高校選手権水泳競技大会 6月23日

100m 背泳ぎ	第3位 松本直大 (1-4) 1:03.54
200m 背泳ぎ	第3位 松本直大 (1-4) 2:19.13

◆第50回中国四国学生選手権兼第49回中国四国国公立大学選手権 (児島地区公園水泳場) 6月29日～30日

100m 背泳ぎ	第1位 奥田真也 (4M) 58.98
200m バタフライ	第2位 奥田真也 (4M) 2:05.71

◆第55回四国高等専門学校体育大会水泳競技 (広島県立びんご運動公園コミュニティープール) 7月6日～7日

100m バタフライ	第1位 奥田真也 (4M) 57.09
200m バタフライ	第1位 奥田真也 (4M) 2:03.39 (大会新記録)
100m 背泳ぎ	第1位 奥田真也 (4M) 57.41 (大会新記録)

100m バタフライ	第3位 松本直大 (1-4) 1:01.20
100m 背泳ぎ	第2位 松本直大 (1-4) 1:01.38
200m 個人メドレー	第1位 松本直大 (1-4) 2:14.57

◆2019 年度徳島県選手権水泳競技大会兼年齢別選手権
7月14日

50m 自由形	第5位 奥田真也 (4M) 25.69
100m 背泳	第1位 奥田真也 (4M) 59.34
50m 自由形	第4位 松本直大 (1-4) 25.47
100m 背泳	第5位 松本直大 (1-4) 1:05.21

◆第70回四国高等学校選手権水泳競技大会

(香川県立総合水泳プール) 7月20日～21日	
100m 背泳	第13位 松本直大 (1-4) 1:04.38 (予選)
200m 背泳	第9位 松本直大 (1-4) 2:20.60 (決勝)

◆2019 年度国体水泳競技予選会兼夏季 JO 予選会
7月28日

100m 背泳ぎ	第1位 奥田真也 (4M) 59.13 (成年)
50m 自由形	第1位 松本直大 (1-4) 25.57 (少年B)
100m 背泳ぎ	第3位 松本直大 (1-4) 1:05.17 (少年B)

◆阿波おどろスイミングフェスティバル 8月4日

50m 自由形	第2位	松本直大 (1-4)	25.57
			(Eグループ)
50m 背泳ぎ	第2位	松本直大 (1-4)	30.02
			(Eグループ)

◆第66回 全国国公立大学選手権水泳競技大会

(鹿児島・鴨池公園水泳プール) 8月10日～11日

100m 背泳ぎ	第9位	奥田真也 (4M)	59.37 (予選)
200m バタフライ	第8位	奥田真也 (4M)	2:06.65 (決勝)

◆第25回 全国高等専門学校体育大会水泳競技大会

(広島・ひろしんビッグウェーブ) 8月24日～25日

100m 背泳ぎ	第1位	奥田真也 (4M)	59.53
200m バタフライ	第1位	奥田真也 (4M)	2:07.13
100m 背泳ぎ	第5位	松本直大 (1-4)	1:03.70 (予選)
200m 個人メドレー	第5位	松本直大 (1-4)	2:19.03

◆第95回 日本学生選手権 (東京・東京辰巳国際水泳場)

9月6日～8日

100m 背泳ぎ	第64位	奥田真也 (4M)	59.17 (予選)
200m バタフライ	第59位	奥田真也 (4M)	2:06.34
			(予選)

◆第17回 中国四国学生秋季記録会 (アクアパレット松山)

10月6日 短水路

100m 背泳ぎ	第1位	奥田真也 (4M)	56.57
200m 個人メドレー	第3位	奥田真也 (4M)	2:09.20

◆第7回 徳島県 SC 秋季記録水泳競技大会

10月27日 短水路

50m 自由形	第3位	松本直大 (1-4)	25.56 (15～18才)
50m 背泳ぎ	第2位	松本直大 (1-4)	29.46 (15～18才)
50m 平泳ぎ	第2位	松本直大 (1-4)	34.28 (15～18才)
50m バタフライ	第2位	松本直大 (1-4)	28.14 (15～18才)

◆2019年度 徳島県秋季室内選手権兼第8回 徳島県 SC 対抗水泳競技大会 11月17日 短水路

100m 背泳ぎ	第1位	奥田真也 (4M)	57.07
			(Fグループ)
200m バタフライ	第1位	奥田真也 (4M)	2:03.56
			(Fグループ)
50m 自由形	第4位	松本直大 (1-4)	25.49
			(Eグループ)
100m 自由形	第6位	松本直大 (1-4)	56.57
			(Eグループ)

◆四国スイミングクラブ新年フェスティバル (アクアパレットまつやま) 1月11日～12日 短水路

50m 自由形	第20位	松本直大 (1-4)	25.43
200m 背泳ぎ	第11位	松本直大 (1-4)	2:11.78
			(水泳部顧問 松本高志)



サッカー部

サッカー部 OB・OG のみなさま、お元気でご活躍のことと存じます。サッカー部の現在の部員数は選手・マネージャー含めて、53名で活動しています。

サッカー部では高学年(5年生, 4年生)の中心のチームと低学年(3年生, 2年生, 1年生)の中心チームで出場できる大会が決まっています。今年度の高学年チームの成績は四国高専大会で準優勝でした。しかし、残念ながら全国大会の出場枠が一つであったために全国大会には出場できませんでした。一方で、低学年のチームの成績は高校総体初戦敗退で、選手権予選も初戦敗退でした。また、低学年の徳島リーグでは残念ながら3部リーグに降格することが決定しました。来シーズンはTリーグで一つでも多く勝利することを目指して、日々の練習に精進したいと思います。

今後ともOB・OGのみなさまにはご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

(サッカー部顧問 園田昭彦)



硬式野球部（低学年）

部員 計20名（内マネージャー3名）
 3年生7名
 2年生5名（内マネージャー2名）
 1年生8名（内マネージャー1名）
 主将 長手新之助（情報コース2年）
 副主将 亀島知起（機械コース2年）
 顧問教員 小松 実（電気コース）・山田耕太郎（一般教養）・
 堀井克章（建設コース）・西本浩司（機械コース）・
 岡本浩行（情報コース）・藤居岳人（一般教養）
 練習時間 平日の放課後（午後4時半～7時）・土日祝

今年度はまず総体南部ブロック大会で8年ぶりに3位になり、続く選手権大会でも2年ぶりに初戦突破を果たすことができました。また、秋季大会では9年ぶりに準々決勝に残ることができ、部員は少ないながらも何とか頑張っているところです。ただし、選手権大会の2回戦、あるいは秋季大会の準々決勝での敗れた試合では非常に悔しい思いをしたことも事実です。その悔しさをバネに、春季大会あるいは夏の選手権大会では、さらに一つでも上へ勝ち上がれるよう、部員、顧問一同、精一杯努力をしていきたいと思っておりますので、ご声援よろしくお願いたします。

（硬式野球部顧問 山田耕太郎）

まずは、今年度に行われた大会での結果です。

◆第72回徳島県高等学校野球春季大会

一回戦 ● 2-11 徳島北（8回コールド）

◆総体南部ブロック大会

一回戦 ○ 3-2 小松島西

準決勝 ● 2-9 富岡西（8回コールド）

三位決定戦 ○ 7-5 海部

◆第101回全国高校選手権徳島大会

一回戦 ○ 7-6 池田辻

二回戦 ● 4-7 城西

◆新人南部ブロック大会

一回戦 ● 1-10 阿南光（7回コールド）

◆第72回徳島県高等学校野球秋季大会

一回戦 ○ 8-0 那賀（8回コールド）

二回戦 ○ 11-1 阿波（6回コールド）

準々決勝 ● 1-8 小松島西（8回コールド）



…文化部…

吹奏楽部

令和元年度、吹奏楽部は24名の部員で活動しました。今年度の活動を振り返ってみます。

4月3日 入学式

「ロマネスク」「This Is Me」「君が代」「校歌」「ウィーアー！」

5月16日 室内コンサート

「TEQUILA」「ヤングマン (Y.M.C.A.)」「COPACABANA」「ウィーアー！」「This Is Me」

11月9日～10日 蒼阿祭 (阿南高専第一体育館)

「COPACABANA」「TEQUILA」「LA BAMBBA」「El Cumbanchero」「ヤングマン (Y.M.C.A.)」「Dancing Queen」「チェリー」「小さな恋のうた」「ハナミズキ」「残酷な天使のテーゼ」「宿命」

12月15日 四国地区高専総合文化祭 (西条市総合文化会館)

「COPACABANA」「TEQUILA」「LA BAMBBA」「El Cumbanchero」「ヤングマン (Y.M.C.A.)」「Dancing Queen」

今年度は、ラテン系、ダンス系ナンバーを中心に演奏しました。12月の四国地区高専総合文化祭では昨年度に引き続き審査がありました。入賞は叶いませんでしたが、審査員の講評には「コンセプトを持ったプログラムがおもしろいと思いました。ビートとリズムが重要な楽曲を打楽器を中心としてまとまりのとれた演奏ができています」「リズムミカルにとっても楽しそうに聴こえていて大変良かったです」とありました。

来年度の四国地区高専総合文化祭は、12月12日～13日、阿南高専管で、阿南市文化会館 (夢ホール) で開催されます。ぜひお越しくださいとお願いします。

よりよい演奏をめざして活動します。今後ともよろしくお願いたします。

(吹奏楽部顧問 錦織浩文)

茶 道 部

茶道部OB・OGの皆さま、お元気でご活躍のことと存じます。茶道部は現在部員15名 (専攻科生1名、5年5名、4年4名、3年2名、2年3名) で活動しています。今年は未だに1年生の入部希望がなく、学寮を中心に現在も部員一同で勧誘しています。

学寮の教養講座のお手伝い (月曜の夜) を中心に、毎週2回ずつ、高志会館2階和室で部員たちはお点前の稽古をしています。教養講座の日には亀井かよ先生・林初音先生も来校されて、熱心にご指導いただいています。また、茶道部OBの桑村憲治寮務係長にも引き続きいろいろご助言いただいております。顧問は私 (藤居) のほか、機械コースの大北裕司先生が担当しています。

以下、今年度の行事を報告します。まず、前期は、恒例となった春のチャリティー茶会を実施しました。天候の関係もあってか例年より来客数が少なかったのですが、多くの常連の教職員や学生に参会していただきました。

後期に入って、恒例の11月の蒼阿祭のお茶会では、女子学生による恒例の和服によるおもてなしはできなかったのですが、天候にも恵まれて2日間で約500名を超える方々が来会下さいました。

12月には総合文化祭 (弓削高専主催) のお茶席も実施い

たしました。香川高専の両キャンパス、高知、阿南で実施いたしました。阿南は表千家流ですが、裏千家流、石州流など少し違ったお点前を見ることができ、大いに刺激を受けることができました。

その中で本校は亀井先生・林先生のご指導のもと、相変わらず和気藹藹の雰囲気の中で、みな一所懸命にお点前の稽古に励んでいます。

学寮の教養講座以外の今年度の茶道部の主な活動状況です。

- ・4月 春のチャリティー茶会
- ・11月 蒼阿祭 お茶席
- ・12月 四国地区高専総合文化祭 (弓削高専) お茶席
- ・1月 初釜チャリティー茶会 (予定)
- ・その他 亀井先生・林先生のお茶会のお手伝い

部 長 八原美月 (電気コース3年)

顧 問 藤居岳人 (一般教養)、大北裕司 (機械コース)

今後ともOB・OGの皆さまにはご支援のほど、よろしくお願申し上げます。

(茶道部顧問 藤居岳人)

プログラミング同好会

プログラミング同好会のOB・OGの皆様、今年度も全国で台風の被害が多く発生した年となりました。台風19号が猛威を振った翌日の10月13日～14日、都城高専主管で、都城市総合文化ホールで開催された第30回全国高専プロコンでの成果について報告させていただきます。台風19号の影響で、開催および移動が心配されましたが、何とか無事に私たちも会場入りすることができコンテストも予定通り開催されました。今年は、自由部門1案、競技部門1案が予選通過し、競技部門を含め、3年連続で全3部門に出場しました。

阿南高専は昨年度に続き2年連続で優秀賞（第2位）を受賞しました。今年優秀賞を受賞したのは、自由部門の「あ！水ダス（AMI Z D A S）ー水災害を自ら防ぐ水位監視システムー」です。小型で安価な水位計を開発し、IoTプラットフォームを活用した水位の監視と、住民自らアラートを設定できるWebシステムを開発、提案しました。優秀賞に加え、チームラボ企業賞、NICT賞を受賞し起業家甲子園挑戦権を獲得しました。

また、地域活性化をテーマとした課題部門では、「TOZANーもっと楽しく運動！地元の山がゲームの舞台に！ー」と題して、健康器具のステッパーと連動した登山疑似体験装

置を提案しました。提案するシステムでは、スマホアプリで簡単に登山道中の画像・音声を取得でき、サーバで自動処理することで容易に登山道中の映像コンテンツを作成できることをアピールしました。学生達はデモンストレーションでシステムをしっかりとアピールし、ブースを訪れた多くの方に評価されましたが入賞できませんでした。学生相互評価では、課題部門、自由部門ともに1位を獲得しました。

競技部門は、昨年に続きフィールド上での占有陣地ポイントを競う陣取りゲームで、今年はサーバ上でのプログラム対戦形式でした。予選で思うように結果が出せず、敗者復活戦から第2ステージに進出しましたが、ファイナルステージ進出を逃しました。

参加した学生達は、来年度も上位入賞を目指してチャレンジしていきたいと意気込んでいます。今後とも変わらぬ皆様からのご声援・ご協力よろしくお祈いします。

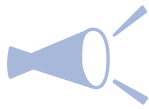
（プログラミング同好会顧問 吉田 晋）



全国高専プロコン出場メンバー

支部
だより

悠久東京支部同窓会



悠久同窓会東京支部「青梅一泊会」(令和元年度) 報告

昭和45年度機械 敏 鎌 次 朗

恒例となりました「青梅一泊会」が、令和元年の今年も、10月4日(金)、5日(土)の2日間いつものメンバーが集まり、初日にゴルフ、温泉と宴会、2日目に近隣の観光地散策と昼食会のメニューで開催されたので、その概要を報告します。

もともとこの会は、青梅在住の1E増田さんを囲み、互いの健康を確認、そして思い出と近況等を語り親睦を深め様と、1E石田さんが幹事を務められ1期生を主体にスタートしたと聞いています。年々輪が広がり、昨年までに1期生、2期生、4期生の構成となっていたのに加え、7回目の今年は3M赤石さんが参加され、1期生6名、2期生3名、3期生1名、4期生3名の合計13名とより親睦を深められる構成で開催しました。

***ゴルフ(1E井内さんのアレンジで、飯能くすの樹カントリー倶楽部)**

台風18号くずれの影響で、ゴルフ場に着くまでのかなりの雨に開催を心配しましたが、メンバーの日頃の行いのせいか、スタート前に雨はピタリと止み、天気も急速に改善し、快適にプレーを楽しめました。メンバー(以後敬称略)は1E井内、1M矢野、2E佐藤、湯浅、3M赤石、4E川人、畑山、4M敏鎌の8名で、新ペリア方式の順位戦とニアピン争奪戦を行い、優勝は敏鎌(グロス93、ネット73.8)、2位は赤石(グロス91 ネット74.2)、ニアピンは矢野、赤石、川人、敏鎌が獲得。

前にもこの会でプレーしたコースですが、ゆったりしたアウトコースに比べ狭くトリッキーで勾配のきついグリーンが多いインコースには皆さんてこずった様です。

***夜の部(石田さんのアレンジで、かんぼの宿 青梅)**

夜の部は、ゴルフ組に加え、1E石田、増田、1M喜多、下條、2M乾の5名が合流。ゆっくり温泉につかった後、

喉の渇きを夕食まで我慢できず部屋飲みを始め、時間になるや広間に移動して本格的な宴会開始。冒頭、初参加の赤石さんより、これまで不参加だった3期生として今後積極的に参加したい旨挨拶があった。その後、思い出話を肴にビール、地元の冷酒などを堪能。広間の宴会終了後も続けて部屋飲みを夜半まで継続。本来ならこの時に出た多くの面白い話題を提供したいところも、残念ながら筆者が酒に負け記憶を無くしてしまった事お許してください。

***観光地散策(青梅市花木園、入園無料、駐車は土日祝のみ300円)**

四季折々の草花が楽しめますとの触れ込みであったが、この時期には花も他に見るべき物も少なく、昨夜の酒が残っていたせいもあってか、70才前後の祖父さんグループはあまり歩きたがらず、自販機の冷たい物を飲んで早々に駐車場へ戻る状況でした。ここへ行かれるなら春がお勧めです。また、この公園の斜面には全長211mのローラ滑り台、芝生広場にはターザンロープやブランコ等子供用遊具があるので、子供、孫連れて行くなら今の時期でもOKと思慮します。

***観光地散策(日向和田臨川庭園、入園無料)**

青梅出身の衆議院議員・津雲國利が昭和9年(1934)に建造した邸宅で、遺族の青梅市への寄付により一般開放されるようになったとの事。個人の邸宅跡なので比較的小振りですが、多種の草木が見栄え良く配置されており、花の時期には是非また見てみたいと思わせる場所でした。

ただ駐車場が用意されておらず、5台で訪問した我々一行は車の置き場所探しに相当の時間を費やすも見つけられず、道脇に止めて石田さん見てもらっている間に急ぎ見学を済ませました。宮ノ平駅から徒歩5分との事なので、行かれるなら電車利用がお勧めです。



*昼食（紅梅苑）

長編小説「鳴門秘帳」の作者であり、青梅に暮らした文豪吉川英治の奥さんが始めたといわれる梅菓子処の紅梅苑で、季節の料理 栗おこわ膳を頂いた。落ち着いた店内でスイーツを味わい、梅菓子を土産にするのもお勧めです。

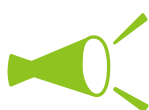
ここで、来年の再会を祈念しお開きとなりました。

全体とりまとめ幹事の石田さん、ゴルフをアレンジの井内さん、大変お世話になりありがとうございました。参加者

一同を代表し感謝申し上げます。そして参加された皆様、来年もまた元気でお会いしましょう。

参加者（敬称略） 13名

- 1期生：井内清治、石田徳平、喜多明徳、下條哲世、増田孝次、矢野健二郎
- 2期生：乾 寛、佐藤忠氏、湯浅尋夫
- 3期生：赤石治信
- 4期生：川人真佐行、畑山 芳文、敏鎌 次朗



東京支部悠久同窓会開催について

支部長（昭和48年度機械） 高橋 保 人

悠久東京支部同窓会を平成31年4月13日（土）午後1時から、新宿住友ビル47階住友クラブにて開催しました。当日は天気も良く、高層ビルの窓から見える風景は絶景で、1年ぶりの再会には、相応しい雰囲気でした。また平成最後の同窓会ということもあり、今までを振り返ると格別な想いもあります。また、例年と同じ場所で開催できるのも1Mの喜多明徳氏のおかげです。感謝の一言です。

式次第は、13Eの本田 勝氏より乾杯の発声の後、各方面の関係者の方々に挨拶をお願いしました。母校の寺沢校長先生からは卒業生の就職状況や、在校生のプログラミングコンテストの活躍、更に、将来オリンピックとして「eスポーツ」が高専生向きではないかという挨拶がありました。続いて徳島県東京事務所の利徳副本部長、新任の吉成主任、更に阿南東京事務所の柏木所長には、徳島県並びに阿南市のPRをお願いしました。

その後、徳島悠久支部の支部長である7Mの日出晴夫氏から、徳島支部の活動状況報告や今後の悠久同窓会のあり方など提案の内容の説明がありました。

今回は、1期生から51期生まで総勢45名の集まりとなりました。田中達治先生には毎年若い卒業生を誘って同窓会に参加頂いております。仲間づくりにお骨折り頂き、感謝申し上げます。初めての方、久しぶりに参加した方もいて、年の差は離れていても大いに盛り上がった一日となりました。

挨拶の後は飲食タイムを挟み、いつものように会員メンバーの近況報告を行いました。2Mの宮城 進氏（山崎辰三郎）には前進座公演の紹介があり、口上を披露して頂きました。近況報告も終わり、恒例のビンゴゲームには、進行役として、42Sの谷澤彰紀氏と44Sの武田美咲氏にお願いしました。賞品には、住友クラブオリジナルのワインなどが提供され、ビンゴを当てた人は喜んでいたのが印象的でした。全員盛り上がる中、「アッ」と言う間に時間が過ぎてしまいました。ゲームの後は、はるばる奈良から駆けつけてくれた7M佐藤泰弘氏のフルート演奏の下で、「校歌」と「寮歌」を斉唱し、最後に13Eの小林正興氏に締めをやって頂きました。

慌ただしい中ではありましたが、写真撮影も無事終わり、次回も4月第2土曜に元気な顔で会うことを約束し散会となりました。散会後も名残惜しい同窓会の連中が二次会に消えていったことをお伝えしておきます。

今回は5名が初めて参加しました。関東にいる卒業生は年に一度ですので、是非参加し親睦を深めて頂ければと思っています。

次回同窓会は、いよいよ「令和」に開催となります。4月11日（土）、新宿住友三角ビルにて行う予定です。時間については別途案内いたします。



近況報告

川田 政也 (36S) 平成 14 年度

子どもが生まれました。女の子です。成長が楽しみです。

庄野 新一 (1M) 昭和 42 年度

毎日ゴルフの生活です。合い間に翻訳をして生活費をかせいでいます。

喜多 明德 (1M) 昭和 42 年度

ソフトボール創部 35 周年行事を 3 月に行いました。明日 (4/14) は春季区民大会の準決勝です。若者の活躍に期待しています。

日出 晴夫 (7M) 昭和 48 年度

年金受給していますが、ビジネスにも頑張っています。経営コンサルタントを行っています。

佐藤 泰弘 (7M) 昭和 48 年度

昨年 6 月で会社生活を終え、年金受給者になりました。フルートアンサンブルとマラソンを楽しんでいます。

松原 仁志 (3M) 昭和 44 年度

61 才で仕事は卒業し、毎日のんびり気ままにやっています。体力低下を防ぐためウォーキング、サイクリング等楽しんでしています。

湯浅 尋夫 (2E) 昭和 43 年度

古希を迎え、思い出作りに日々励んでおります。飲み会、旅行、カラオケ、ゴルフ etc.

高橋 重之 (1M) 昭和 42 年度

4 月から非常勤になり、第 2 の人生へ華麗なる加齢を目指して少しは地域活性化に協力したい。

敏謙 次朗 (4M) 昭和 45 年度

相変わらず元気です。ウォーキングにはげんでいます。

福居 英徳 (4M) 昭和 45 年度

昨年 5 月にアキレス腱を断裂して、初めて入院生活を送りました。その後は元気で過しています。

高橋 保人 (7M) 昭和 48 年度

3 月で再雇用満了後、4 月からは年金生活となりました。「きょういく」「きょうよう」を目指して頑張ります。健康作りにウォーキング、ジョギングをやっています。

田上 博雅 (5M) 昭和 46 年度

初めての参加です。一期一会！出会いと別れを大切に、生きてます。

関本 雅彦 (14M) 昭和 55 年度

来年で定年のとしくなりました！！

島 浩章 (20E) 昭和 61 年度

美波町にサテライトオフィスを出しました。VR/MR でデジタルツインやっています。

畑山 芳文 (4E) 昭和 45 年度

仕事のにも自由な時間が取れるようになったので、温泉でも行ってみたいと思います。サッカーはまだやっています。今年から 1 年生担当で少年サッカークラブのコーチです。

森浦 拓也 (44M) 平成 22 年度

安全第一、無事故無違反、今年もバイクで走ります！

高橋 寛治 (46S) 平成 24 年度

自然言語処理 (AI) の研究開発してます。スマブラにハマってます。

武田 美咲 (44S) 平成 22 年度

去年と変わらず数学×神経科学の研究やっています。

谷澤 彰紀 (42S) 平成 20 年度

今年も来ました。パン屋の情シスやっています。

尾田 晃 (36S) 平成 14 年度

産業分野の SE やっています。今年引越しました。

田中 達治 (13E) 昭和 54 年度

これからもよろしくお願ひします。

松原 仁志 (3M) 昭和 44 年度

年金生活でのんびりやっています。

櫛田 富生 (8M) 昭和 49 年度

退職して 1 年がアツ過ぎました。来年も参加します。

森岡 和博 (8M) 昭和 49 年度

早 1 年が過ぎました。仕事と孫 4 人の世話に忙しくしています。高橋さんいつもありがとうございます。

赤石 治信 (3M) 昭和 44 年度

24 年ぶりに参加しました。前回は卒業以後 25 年で参加。次の 25 年後はまちがいなく出席できません。

65 才でリタイヤし、テニス、ゴルフ、スキーを楽しんでいます。西東京市のテニス教室で月 3～5 回教えています。ゴルフはいくらやってもうまくならず、皆さんと楽しみたいと思っています。

西野 賢太郎 (2E) 昭和 43 年度

悠久の 51 年目を踏み出しました。次回の記念行事は還暦大会を目指してさらなる活性化にご協力よろしくお願ひします。

乾 寛 (2M) 昭和 43 年度

友、過去の思い出を連れて来たる。また楽しからずや。

佐藤 忠氏 (2E) 昭和 43 年度

一日一生。テニス、ゴルフ、野菜作り続けています。

林 祐貴 (26M) 平成 4 年度

出席出来る悠久は出たいと思います。あちこちいますのでよろしくお願ひします。

矢野 健二郎 (1M) 昭和 42 年度

毎朝の散歩と地域の人と健康マーじゃん、飲み会等で日々元気に過しています。

石田 徳平 (1E) 昭和 42 年度

足腰の衰えが気になるサンデー毎日ですが、ウォーキングとか、ジョギングの距離が回数を増やそうかと思っています。元気が何より!

下 條 哲 世 (1M) 昭和 42 年度

昨年 11 月に退社、久しぶりの参加です。当面「邪馬台国 徳島説」を追いかけ遊んでみたいと思っています。

新 居 秀 明 (6E) 昭和 47 年度

66 才になりました。あと何年生きるか? いつお迎えがくるかわからないので好き勝手やっています。新しいこととして、先日の選挙である候補者の事務局長を初めてやりました。が、やはり落選しました。

山 下 孝 男 (6M) 昭和 47 年度

先が見えてきましたがいつまでも青春だと考えています。6 年ぶりの参加ですが皆の元気の力をもらいました。ボケないように折り紙を続けたいと思います。

山 崎 辰三郎 [宮城 進] (2M) 昭和 43 年度

古希をこえ、あと 5 年位は舞台に立つ事を決意しました。昨年の二期の徳島での同窓会で 40 名以上の仲間年半世紀ぶりに会えた事、最高でした。



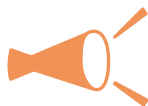
悠 久 東 京 支 部

Handwritten notes and messages from members of the Eikyū Tokyo Branch, dated 2019 (H31) 4.13 (Tue) at the Shinjuku Friends Club. The notes are organized by member name and age group:

- 1M 宮橋 竜之介**: 20年ぶりくらい... 今年(初編後)も楽しく参加させて下さい。毎参加で目指して頑張ります。
- 20E 島浩章**: 美津町に行かっ... VR/MR 楽しませ!!
- 3M 糸石**: 毎日忙しく遊んで... 元気になっていきます。Fの皆さんの熱心、反響に感謝!
- 44M 森浦**: 初参加です、来年も参加します!
- 2M 山崎 辰三郎**: 皆さんとの再会、最高です。解任にも感謝です。
- 12E 山本 正樹**: 初出席です!! 面白いイベント、南東支部 楽しんでます。
- 31E 松本 仁元**: 好奇心を失わず 楽しみを継続する!
- 7M 高橋 保**: 今年も楽しい一日です。飲んで食べてしゃべって! 1E 山本 正樹
- 8M 榎田**: 元気な挨拶
- 8M 森岡 知博**: 今年も楽しんで頂きます。
- 悠久 東京支部**: (第 51 回) 2019 (H31) 4.13 (火) 於 新宿 交友クラブ
- 1M 庄野**: スピーチの参加で、忙しかく昔を思い出して! 1M 庄野
- 5年ぶりの参加で、42名が白アズケに出席!** 引退が9名いるが、参加した10名は、365 尾田、お会いには偶然ながら、別件は必然だ!!
- 1M 田出**: 本日はおつかい... ニゴリ、エイト。
- 1M 下條**: 久しぶりの出席ですが、変わらずおにやっています!!
- 最近、献血 150回達成**: 健康の証し、親に感謝、唯一の社会貢献
- 6E 新居 秀明**: 3年振りに出席しました。出席者の最年手は51期生で、年々流れに感謝しています。
- 7M 佐藤**: 6年ぶりに参加、来年以降も可能な限り、参加します。
- 1E 石田**: 元気で出席でき、健康の大切さを実感しています。
- 6M 山下**: 一生青春でかっこいい! 身体も元気、頭も心も。
- 4E 山田 芳文**: 元気にサッカーしています。
- 4M 福居 英純**: 今年も出席します。4回参加して、お疲れです。
- 13E 本田 勝**: 今年 60 才に到達! 悠久 がんばります。
- 24E 濱高 亮**: 初参加! 楽しかった。
- 5M 用上 博雅**: いつもアットホームな雰囲気、悠久同窓会大好きです。これから引き続きいって下さい。
- 44S 武田 美味**: 今年もご一緒! お願いです。
- 13E 田村 隆治**: 42S 谷澤
- 一日一生**: 元気な挨拶に感謝。
- 2E 佐藤**: 元気な挨拶に感謝。
- 1M 矢野 健一郎**: 元気な挨拶に感謝。

支部
だより

悠久関西支部同窓会



悠久同窓会関西支部の開催

昭和48年度機械 支部長 久米啓右

令和2年2月1日(土)、昨年と同じ梅田の「ニューミュンヘン北大使館」にて悠久同窓会関西支部同窓会を開催いたしました。

来賓として、元校長小松満男様、新しく悠久同窓会々長になられた横手久典様、同副会長西野賢太郎様、東京支部長高橋保人様を迎え総勢28名の参加をいただきました。

今回(第7回)から毎年開催とし、皆さんに気軽に参加いただき情報交換ができる同窓会としたいと思います。また、連絡方法はメールとFacebookでおこなうこととしました。そのFacebookには関西支部の情報を掲載しております。自由に投稿をいただきWebでの参加もよろしく願いいたします。

関西支部同窓会の開催は毎年2月の第1土曜日を予定しております。来年の予定を入れていただき皆様のご参加をお待ちしています。

次回開催日時: 令和3年2月6日(土) 12:00~

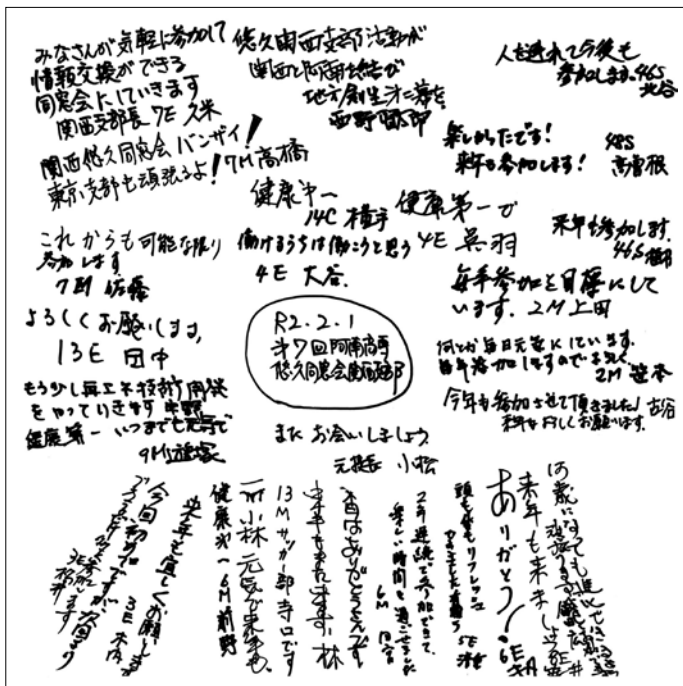
場所: 梅田ニューミュンヘン北大使館(予定)

です。

Facebookのアドレスは<https://www.facebook.com/ananyukyukansai/>もしくは「阿南高専悠久関西」で検索してください。

7E久米への連絡先アドレス:

ananyukyukansai@nike.eonet.ne.jp



参加者一覧

No.	卒回	氏名	No.	卒回	氏名	No.	卒回	氏名	No.	卒回	氏名
1	来賓	小松満男	8	機2	上田宗夫	15	機13	寺口健二	22	電5	清重義治
2	来賓	田中達治	9	機2	笹本重美	16	機13	林忠志	23	電6	喜多正
3	来賓	横手久典	10	機6	四宮一彦	17	電3	鎌田広	24	電7	久米啓右
4	来賓	高橋保人	11	機6	前野秀夫	18	電3	木内光幸	25	電8	笠井功
5	来賓	西野賢太郎	12	機7	佐藤泰弘	19	電3	松井健次	26	情46	植松賢人
6	機1	宇野浩	13	機9	古谷清司	20	電4	大谷英一	27	情46	北谷雅治
7	機1	小林敏夫	14	機9	遊塚茂	21	電4	呉羽武	28	情48	高曾根遙香

よろず
伝言板

「各種証明書」の発行事務についてお願い

卒業生の皆様が、各種資格の取得、就職試験、進学受験、海外出張等をされる場合には、ほとんどの場合、本校に在籍し、または卒業・修了したことについて、各種の証明書が必要です。(卒業・修了・成績・履修・調査書など) これらの証明書を速やかに発行するため、以下のことにご留意・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

1. 各種証明書の発行申請について

各種証明書の発行は、「諸証明書発行願」により、学生課教務係へ申し込んでください。

この発行願は、教務係に設置しているほか、学校のホームページからダウンロードすることができます。提出するときには、押印が必要です。

2. 遠隔地からの発行申請について

県外在住など来校するのが難しい場合、下記のものをお送りして申し込むことができます。

① 「諸証明書発行願」:発行願には下記のことを記載してください。

(ア)必要な証明書の種類 (卒業証明書・成績証明書等)

(イ)必要部数

(ウ)使用目的・提出先

(エ)氏名 (卒業時の名字)

※英文証明書が必要な場合は、パスポートどおりのローマ字表記を併記してください。

(オ)生年月日

(カ)卒業・修了学科

(キ)卒業・修了年月日

② 返信用封筒

(ア)郵便番号・宛先・宛名を記載してください。

(イ)84円切手 (必要部数が多い場合は94円か120円)を貼ってください。

速達の場合は290円分を追加してください。

3. その他

① 英文証明書や調査書の発行には、1週間～10日程度を要します。また、郵送の場合はさらに4日程度を要しますので、十分な余裕をもって申し込んでください。

② 緊急に証明書が必要な場合で直接窓口に来られるときは、事前に電話をいただけますと、お待ちせず証明書を発行できます。

※ 英文証明書・調査書・高等学校卒業程度認定試験に関する証明書は、即日発行できませんのでご了承ください。

③ 発行は無料です。郵送の場合は、郵送実費(切手)のみ必要です。

④ 証明書の氏名は、本校卒業時氏名での発行となります。

各種証明書は、皆様ご自身に関する一身上の極めて重要な意味をもった公文書ですから、発行には慎重な事務手続きを期すとともに、皆様の要望に、円滑に対応できるよう努力いたします。申し込みの際には、上記のことをご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■申請先■

〒774-0017 阿南市見能林町青木 265

阿南工業高等専門学校 学生課教務係

電話 (0884) 23 - 7133

F A X (0884) 22 - 4232

この“よろず伝言板”は「悠久」の誌上を通じて会員相互の心の絆を深めるために設けたものです。

何でも結構!! ふるって御投稿下さい。

悠久第53号原稿募集

(阿南高专悠久編集部)

阿南高专同窓会誌「悠久」も本号で第52号となります。最近では会員たよりの原稿を集めるのに苦労しています。来年度の53号を充実したものにすため、皆様の楽しい便り、写真、マンガ、イラスト、俳句など、何でもかまいません。どしどし原稿をお送り下さい。量はA4版1枚に収まる範囲程度です(もちろん少ない原稿も歓迎します)。郵送もしくは左記のメールアドレスに添付ファイルにてお送りください。

編集委員一同首を長くして待っています。

編集委員

1	上田登志男(徳島市)
1	福田正和(阿南市)
1	林岩男(藍住町)
2	林政憲(徳島市)
2	中津清(徳島市)
2	岡本満雄(徳島市)
3	藤井美和(小松島市)
3	荒井敏廣(徳島市)
3	中尾一樹(徳島市)
4	平山茂(阿南市)
4	正敏(小松島市)
5	森忠敬(徳島市)
5	上森敬(船橋市)
8	斎藤志博(鳴門市)
13	回電機 伊丹中達(徳島市)
13	回電機 田友治(徳島市)
17	回電機 斎藤友治(徳島市)

原稿送り先

〒774-0017

阿南市見能林町青木 265

阿南高专内悠久同窓会事務局

メール送付先

dosokai@anan-nc.ac.jp

原稿締切 2020年11月13日必着

阿南高専卒業生数

()内は女子数で内数 令和元年12月31日現在

卒業年度	卒業期	機械工学科	電気工学科 電気電子工学科	制御情報工学科	土木工学科 建設システム工学科	化学コース	合計
昭和42	1	80	38 (1)				118 (1)
43	2	79	37 (2)				116 (2)
44	3	70	31				101
45	4	67	37 (1)				104 (1)
46	5	55	36		33		124
47	6	82	39 (1)		34 (1)		155 (2)
48	7	67	36 (1)		38		141 (1)
49	8	61	34 (1)		30		125 (1)
50	9	69	32 (1)		35		136 (1)
51	10	61	36		37		134
52	11	82	40		37		159
53	12	70	31		32		133
54	13	71	40		30		141
55	14	66	38		31		135
56	15	64 (1)	38		33 (1)		135 (2)
57	16	61	35		31 (4)		127 (4)
58	17	65	37		26		128
59	18	76	34 (1)		34		144 (1)
60	19	54 (1)	37		32		123 (1)
61	20	75	36		28		139
62	21	59	40		32		131
63	22	71	40		40		151
平成元	23	72	41 (1)		43 (1)		156 (2)
2	24	75	42		32		149
3	25	78	44 (1)		38 (1)		160 (2)
4	26	74	43 (1)		31		148 (1)
5	27	42 (1)	31 (1)	32 (8)	34 (2)		139 (12)
6	28	46	48 (1)	40 (12)	28 (2)		162 (15)
7	29	29 (1)	43 (2)	41 (10)	36 (3)		149 (16)
8	30	43 (1)	37 (2)	39 (12)	45 (3)		164 (18)
9	31	37 (1)	41 (4)	38 (16)	35 (7)		151 (28)
10	32	38	41 (1)	40 (12)	42 (6)		161 (19)
11	33	33	36 (6)	33 (11)	36 (6)		138 (23)
12	34	45 (3)	37 (5)	39 (12)	39 (12)		160 (32)
13	35	34	40 (1)	37 (14)	38 (10)		149 (25)
14	36	31 (3)	38 (7)	28 (9)	32 (5)		129 (24)
15	37	39 (1)	36 (5)	31 (11)	38 (13)		144 (30)
16	38	41 (2)	43 (6)	40 (16)	39 (11)		163 (35)
17	39	38 (1)	36 (4)	40 (17)	34 (14)		148 (36)
18	40	37 (1)	43 (4)	31 (8)	28 (8)		139 (21)
19	41	36	42 (2)	29 (10)	32 (9)		139 (21)
20	42	35	45 (5)	38 (7)	37 (6)		155 (18)
21	43	35	39 (4)	38 (15)	40 (7)		152 (26)
22	44	36	38	34 (11)	27 (7)		135 (18)
23	45	42 (1)	37 (2)	34 (17)	33 (11)		146 (31)
24	46	41	44 (8)	47 (10)	34 (9)		166 (27)
25	47	47 (4)	44 (2)	41 (10)	20 (3)		152 (19)
26	48	40	39 (5)	36 (9)	29 (4)		144 (18)
27	49	45 (4)	36 (9)	42 (3)	22 (7)		145 (23)
28	50	41 (6)	40 (6)	37 (4)	30 (9)		148 (25)
29	51	42 (7)	37 (6)	41 (9)	31 (7)		151 (29)
30	52	40 (2)	24 (1)	37 (8)	23 (9)	25 (11)	149 (31)
合計		2,817 (41)	1,987 (111)	963 (281)	1,599 (198)	25 (11)	7,391 (642)

令和元年度卒業予定者(53回)

()内は女子数で内数

卒業年度	回数	創造技術工学科 機械コース	創造技術工学科 電気コース	創造技術工学科 情報コース	創造技術工学科 建設コース	創造技術工学科 化学コース	合計
令和元年度卒業予定者	53	41 (7)	33 (7)	35 (5)	23 (6)	24 (5)	156 (30)

(注) ①平成元年度から機械工学科(2学級)を機械工学科(1学級)と制御情報工学科(1学級)に改組。②平成5年度から土木工学科を建設システム工学科に改組。
③平成14年度から電気工学科を電気電子工学科に改組。④平成26年度から4学科を創造技術工学科1学科に統合。機械、電気、情報、建設、化学の5コース制に再編。

総会のお知らせ

2020年8月12日、下記のとおり総会を開催します。ふるってご参加ください。

講演会

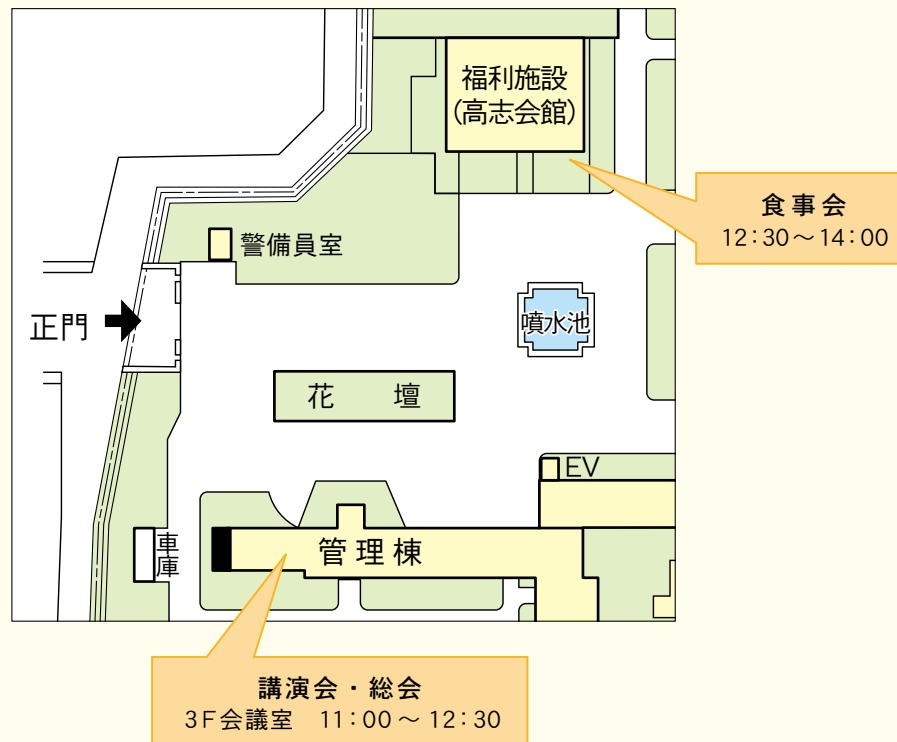
10:30 受付
11:00～12:00 講演会
講師：JR徳島駅ビル開発株式会社
代表取締役社長 大島 雅緒 氏 (10M)
場所：阿南工業高等専門学校 管理棟3F会議室

総会

12:00～12:30 総会
12:30～14:00 名誉教授の先生方との合同食事会
場所：阿南工業高等専門学校 高志会館

会場案内

駐車は噴水の周りの空いているスペースをご利用ください。



寄付金募集のお知らせ (阿南高専悠久同窓会)

悠久同窓会会則第13条(本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる)の規程により寄付金を募集しております。諸経費高騰で悠久同窓会の財政も苦しい折、広く御協力をお願い申し上げます。

送り先 阿南市見能林町青木265
阿南高専内悠久同窓会事務局

振込の場合 郵便局振込
コンビニ振込
銀行振込 徳島大正銀行 阿南支店 普通
口座番号 8594442
阿南工業高等専門学校悠久同窓会